

貝塚市埋蔵文化財調査報告 第78集

貝塚市遺跡群発掘調査概要 32

2010. 3. 31

貝塚市教育委員会

はじめに

貝塚市は、大阪府の南部、泉州地域に位置し、北西は大阪湾に面し、東南は和泉葛城山を有する山間部であり、北西から東南に長くのびる市域形状を呈しています。

今日、私たちの暮らしを取り巻く環境は、開発とともに発展してきました。急速な開発は、自然環境に多大な影響を与え、さらに地下に眠る埋蔵文化財も消滅の危機に瀕しています。

埋蔵文化財は、私たちの歴史や文化の成り立ちを理解する上で欠くことのできない貴重な情報を提供してくれます。この貴重な情報を記録保存することにより将来の文化の向上発展に活かしていく必要があります。

近年、文化財を活用する取り組みが盛んに行われています。埋蔵文化財においても情報や資料の活用を図り、普及啓発に努めていきたいと考えています。

本書は、平成21年度中に実施いたしました緊急発掘調査の結果報告です。住宅建築等に伴い、事前に実施した発掘調査であり、市域の歴史、文化を知るうえで欠かせない成果を得ることができました。

発掘調査ならびに本書の作成にあたり、多大なご指導、ご協力を賜りました関係各位に対し、深謝するとともに、今後とも本市埋蔵文化財保護行政に対する一層のご理解とご支援をお願い申し上げます。

平成22年3月31日

貝塚市教育委員会
教育長 西 敏明

例 言

1. 本書は貝塚市教育委員会が平成 21 年度に国庫補助金を受けて実施した、大阪府貝塚市域における埋蔵文化財緊急発掘調査の概要報告である。なお、遺物整理の都合から一部、平成 20 年度調査についても掲載している。
2. 発掘調査は平成 21 年 4 月 1 日より実施し、平成 22 年 3 月 31 日に終了した。調査は三浦基、木嶋崇晴が行った。
3. 本書の執筆・編集は木嶋崇晴が行った。
4. 出土遺物、調査記録は、貝塚市教育委員会において保管している。
5. 本書の第 3 章においては、貝塚市教育委員会が平成 7 年および平成 8 年に国庫補助金を受けて実施した埋蔵文化財緊急発掘調査について、概要報告書に一部掲載できなかった調査を掲載している。

凡 例

1. 図 5 ~ 18 の調査図面については、調査地位置図は縮尺 1 /5000、方位は座標北を上に統一している。また、調査区位置図の方位は磁北を示す。
2. 本書の土色表示は、農林水産省水産技術会議事務局監修『新版 標準土色帳』1990 年度版を用いた。
3. 貝塚市遺跡分布図については、貝塚市域に限定し、山間部の一部は掲載していない。

目 次

はじめに

例 言、凡 例

目 次 (本文目次、挿図目次、図版目次、表目次)

第1章 平成21年発掘調査の概要	1
第2章 調査の結果	6
1. 小瀬五所山遺跡 2009 - 10 区	6
2. 石才遺跡 2009 - 19 区	6
3. 新井・鳥羽遺跡 2008 - 39 区	7
4. 新井ノ池遺跡 2009 - 25 区	8
5. 堤三宅遺跡 2008 - 43 区	8
6. 窪田ハマデ遺跡 2009 - 22 区	9
7. 窪田遺跡・窪田廃寺 2009 - 23 区	10
8. 名越遺跡 2008 - 42 区	11
9. 清児遺跡 2008 - 49 区、2009 - 11 区	12
10. 地蔵堂遺跡 2008 - 45 区、2009 - 16 区、2009 - 26 区	13
11. 貝塚寺内町遺跡 2009 - 7 区、2009 - 14 区、2009 - 9 区、2009 - 17 区	17
第3章 平成7年・平成8年の調査	24

挿図目次

- 図 1 貝塚市遺跡分布図
図 2 調査地位置図
図 3 調査地位置図
図 4 調査地位置図
図 5 2009 - 10 区
図 6 2009 - 19 区
図 7 2008 - 39 区
図 8 2009 - 25 区
図 9 2008 - 43 区
図 10 2009 - 22 区
図 11 2009 - 23 区
図 12 2008 - 42 区
図 13 2008 - 49 区、2009 - 11区
図 14 2008 - 45 区、2009 - 16 区
図 15 2009 - 26 区
図 16 2009 - 7 区
図 17 2009 - 14 区
図 18 2009 - 9 区
図 19 2009 - 17 区 (1)
図 20 2009 - 17 区 (2)
図 21 調査地位置図 (平成 7 年・平成 8 年)
図 22 調査地位置図 (平成 7 年・平成 8 年)
図 23 調査地位置図 (平成 7 年・平成 8 年)
図 24 調査地位置図 (平成 7 年・平成 8 年)
- 図版 5 清児遺跡 (2008 - 49 区・2009 - 11 区)
1. 2008 - 49 区 完掘状況 (西より)
2. 2009 - 11 区 完掘状況 (北より)
図版 6 名越遺跡 (2008 - 42 区)
地蔵堂遺跡 (2008 - 45 区)
1. 2008 - 42 区 完掘状況 (西より)
2. 2008 - 45 区 完掘状況 (西より)
図版 7 地蔵堂遺跡 (2009 - 16 区・2009 - 26 区)
1. 2009 - 16 区 完掘状況 (北より)
2. 2009 - 26 区 調査区 1 完掘状況 (北より)
図版 8 貝塚寺内町遺跡 (2009 - 7 区・2009 - 14 区)
1. 2009 - 7 区 完掘状況 (東より)
2. 2009 - 14 区 完掘状況 (北より)
図版 9 貝塚寺内町遺跡 (2009 - 9 区)
1. 2009 - 9 区 完掘状況 (西より)
2. 2009 - 9 区 東壁検出状況 (西より)
図版 10 貝塚寺内町遺跡 (2009 - 17 区)
1. 2009 - 17 区 鐘楼南面調査区完掘状況 (南より)
2. 2009 - 17 区 鐘楼南面断面状況 (南より)
図版 11 貝塚寺内町遺跡 (2009 - 17 区)
1. 2009 - 17 区 鐘楼北西隅礎石検出状況 (西より)
2. 2009 - 17 区 鐘楼北東隅礎石下検出状況 (西より)

表目次

- 図版 1 小瀬五所山遺跡 (2009 - 10 区)
石才遺跡 (2009 - 19 区)
1. 2009 - 10 区 完掘状況 (西より)
2. 2009 - 19 区 完掘状況 (北より)
図版 2 新井・鳥羽遺跡 (2008 - 39 区)
新井ノ池遺跡 (2009 - 25 区)
1. 2008 - 39 区 完掘状況 (東より)
2. 2009 - 25 区 完掘状況 (南より)
図版 3 堕田ハマデ遺跡 (2009 - 22 区)
1. 2009 - 22 区 調査区 1 完掘状況 (西より)
2. 2009 - 22 区 調査区 2 完掘状況 (東より)
図版 4 堤三宅遺跡 (2008 - 43 区)
墜田遺跡・墜田廃寺 (2009 - 23 区)
1. 2008 - 43 区 完掘状況 (東より)
2. 2009 - 23 区 完掘状況 (南より)

表 1. 平成 21 年国庫補助事業一覧
(平成 21 年 1 月～ 12 月)

表 2. 平成 7 年・平成 8 年国庫補助事業一覧

第1章 平成21年発掘調査の概要

平成21年の埋蔵文化財発掘届出及び通知の総件数は227件、遺跡外試掘調査依頼は17件である。

届出・通知にかかる対応について、確認調査は32件、立会調査は67件、慎重工事は127件、府にて対応は1件である。

届出及び通知の総件数および依頼の件数は、昨年に比べ減少傾向にある。長引く不況等の社会情勢を反映しているものと考えられる。

分譲住宅の件数は75件であり、減少傾向にある。その要因としては、宅地造成の開発規模が縮小しており、分譲住宅の届出件数に反映されているものと考えられる。

個人住宅の届出件数は50件であり、昨年と比較して減少している。数年前より個人住宅の届出件数は減少を続けており、特に平成20年後半以降の届出件数は減少傾向にある。このうち発掘調査は17件である。

住宅以外の開発は、宅地造成9件、共同住宅5件、店舗4件である。宅地造成、共同住宅、店舗は前年と比較してほぼ横ばいである。

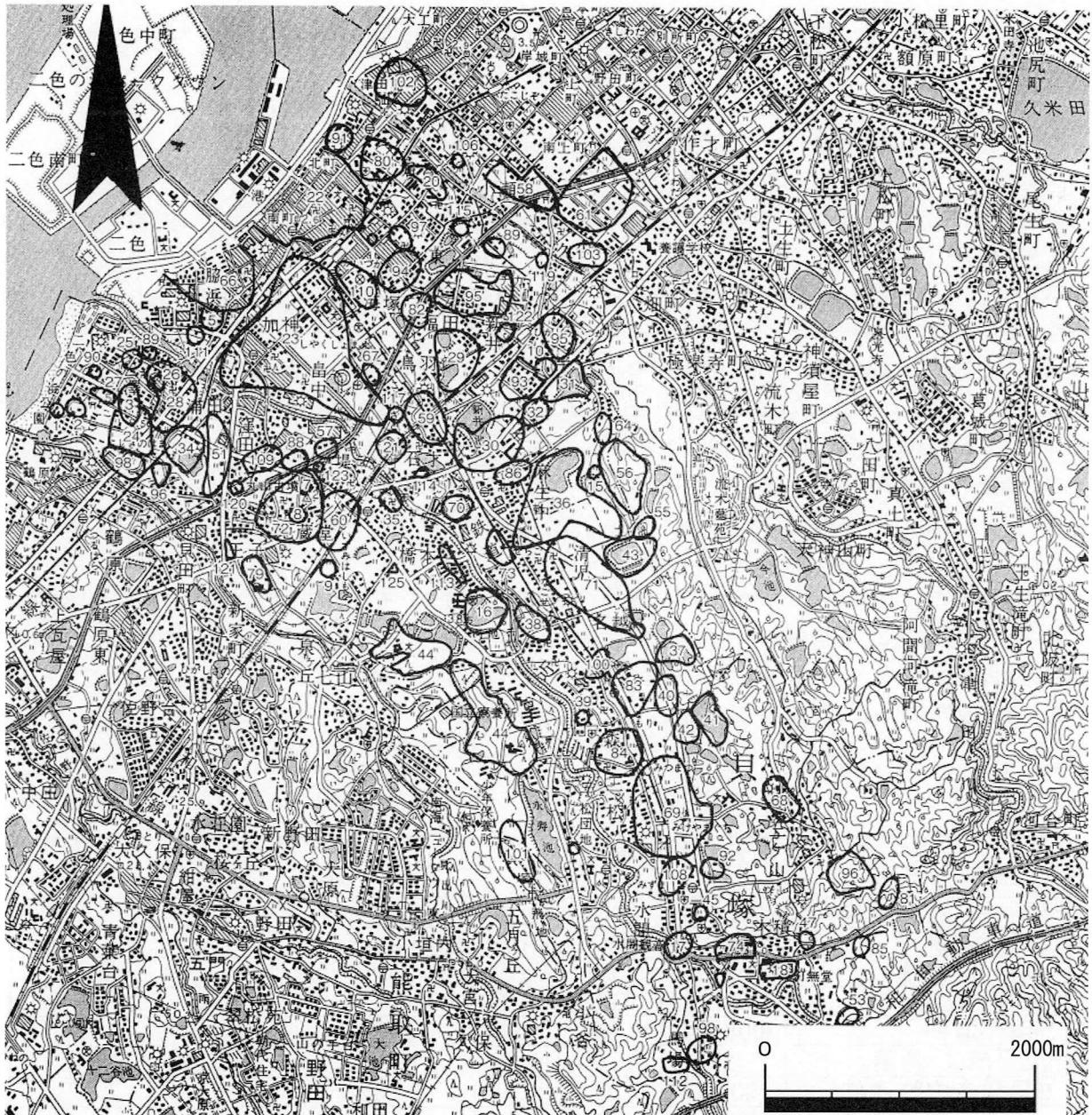
また、個人住宅や共同住宅において地盤改良や柱状改良等の耐震工事を行う事例もあり、埋蔵文化財の破壊が懸念される。

遺跡範囲外においての開発は17件であり、前年に比べ横ばいである。その目的は宅地造成9件、共同住宅1件、工場0件、福祉施設3件、店舗2件、その他2件である。遺跡範囲外での開発については、特に工場の建設が前年度に引き続き0件であり、廃業した工場が宅地化するなど、製造業の苦境がみてとれる。

今年度の遺跡範囲の拡張、新規の遺跡発見についてはなかった。

	遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地
(平成20年度)				
1	新井・鳥羽遺跡	2008-39	NT	新井 136-6他
2	名越遺跡	2008-42	NG	清児 1034-3
3	堤三宅遺跡	2008-43	TM	窪田 1-3
4	地蔵堂遺跡	2008-45	GZZ	王子 1195
5	清児遺跡	2008-49	SG	麻生中 750-5
(平成21年度)				
6	貝塚寺内町遺跡	2009-7	JN	北町 493 の一部
7	貝塚寺内町遺跡	2009-9	JN	中 846
8	小瀬五所山遺跡	2009-10	KGY	永吉 6-22
9	清児遺跡	2009-11	SG	麻生中 85-22
10	貝塚寺内町遺跡	2009-14	JN	南町 1069 ~ 1073
11	地蔵堂遺跡	2009-16	GZZ	地蔵堂 139-11、139-52、132-3、713-3
12	貝塚寺内町遺跡	2009-17	JN	中 846
13	石才遺跡	2009-19	IS	鳥羽 106-2、232-1、232-2
14	窪田ハマデ遺跡	2009-22	KTH	窪田 14-1
15	窪田遺跡・窪田廃寺	2009-23	KTK	王子 1012-10、1012-11 の一部
16	新井ノ池遺跡	2009-25	NI	麻生中 821-12、823-6
17	地蔵堂遺跡	2009-26	GZZ	地蔵堂 278、279 の一部、749 の一部

表1. 平成21年国庫補助事業一覧（平成21年1月～12月）



1. 沢新出遺跡 2. 沢海岸遺跡 3. 沢遺跡 5. 長楽寺跡 7. 地蔵堂丸山古墳 8. 地蔵堂廃寺 9. 下新出遺跡
 10. 秦廢寺 15. 麻生中新池遺跡 16. 河池遺跡 17. 水間寺遺跡 18. 木積觀音寺跡 20 堀遺跡 21 橋本遺跡
 22. 貝塚寺内町遺跡 23. 加治・神前・畠中遺跡 24. 明楽寺跡 25. 沢共同墓地遺跡 26. 沢西出遺跡 27. 沢海岸北遺跡
 28. 沢城跡 29. 新井・鳥羽遺跡 30. 新井ノ池遺跡 31. 半田遺跡 32 麻生中遺跡 34. 濱池遺跡
 35. 積善寺城跡 36. 清児遺跡 37. 集原池遺跡 38. 高井天神廃寺・高井城跡 39. 森城跡 40. 森B遺跡
 41. 森ノ大池遺跡 42. 森A遺跡 43. 二ツ池遺跡 44. 千石堀城跡 45. 水間墓地 46. 三ヶ山城跡 47. 片山墓地
 51. 窪田遺跡・窪田廃寺 53. 坊城遺跡 54. 三ツ松遺跡 55. 槍ヶ谷城跡 56. 半田遺跡（清児地区） 57. 堤遺跡
 58. 小瀬五所山遺跡 59. 石才遺跡 60. 王子遺跡 61. 土生遺跡 64. 海岸寺山遺跡 66. 脇浜遺跡
 67. 今池遺跡 68. 三ヶ山遺跡 69. 三ヶ山西遺跡 70. 石才南遺跡 71. 名越遺跡 72. 地蔵堂遺跡 73. 名越西遺跡
 74. 木積遺跡 75. 新井・鳥羽北遺跡 78. 沢西遺跡 79. 王子西遺跡 80. 津田遺跡 81. 三ヶ山才ニ谷遺跡
 82. 福田遺跡 83. 森下代遺跡 84. 三ツ松北垣外遺跡 85. 薬師池西遺跡 86. 麻生中出口遺跡 87. 小瀬遺跡
 88. 堤三宅遺跡 89. 沢新開遺跡 90. 沢タナジリ遺跡 91. 堀新遺跡 92. 橋池遺跡 93. 麻生中下代遺跡
 94. 堀秋毛遺跡 95. 半田北遺跡 96. 沢老ノ塚遺跡 97. 東遺跡 98. 馬場遺跡 100. 鳥の池西遺跡 101. 白地谷遺跡
 102. 津田北遺跡 103. 久保遺跡 108. 水間二ノ戸遺跡 109. 窪田ハマデ遺跡 110. 海塚遺跡 111. 脇浜川端遺跡
 112. 馬場笛力遺跡 113. 橋本野岸ノ下遺跡 114. 麻生中薬師堂遺跡 115. 谷池遺跡 116. 小瀬大道端遺跡
 117. 石才通井口遺跡 118. 海塚宝伝遺跡 119. 小瀬与九郎遺跡 120. 王子大イケダイ遺跡 121. 王子ヨウサ遺跡 122. 半田ヨコマクラ遺跡 123. 堤西浦遺跡 124. 木積下代遺跡 125. 橋本原宮遺跡

図1 貝塚市遺跡分布図(部分・貝塚市域のみ)



図2 調査地位置図



図3 調査地位置図



図4 調査地位置図

第2章 調査の成果

1. 小瀬五所山遺跡

本遺跡は、津田川右岸下流域の河岸段丘上、標高は7～10mに位置する。周知の遺跡として、弥生～古墳時代・中世の散布地・集落跡である。本市による平成14年度（2002年）の調査においては、6～7世紀代の遺物を中心に出土しており、溝2条、柱穴20基、土坑4基、掘立柱建物2棟等を検出している。

2009-10区の調査（図5・図版1）

本調査は、永吉6-22において実施した。調査は、申請地内において調査区（6m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土1、2層は明黄褐色粘土混じり黄褐色土（盛土2）、3層は灰色砂礫混じり土（盛土3）、4層は明黄褐色粘土（地山）である。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は検出できなかった。

申請地は、土地の削平を受けており、遺物包含層および遺構は確認できなかった。

（木嶋）

2. 石才遺跡

本遺跡は、近木川の右岸の中位段丘上、標高21～23mに位置する。周知の遺跡として、縄文時代、平安時代～中世の遺物散布地である。昭和56年度（1981年）の調査で中世の溝、柵列跡、平安時代の土坑を検出している。

2009-19区の調査（図6・図版1）

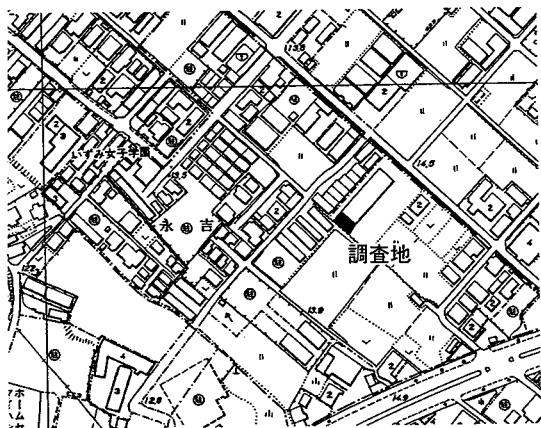
本調査は、鳥羽106-2、232-1、-2において実施した。調査は、申請地内において調査区（6m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土、2層は旧耕土、3層はぶい黄橙色土、4層は灰黄褐色土、5層は褐灰色土、6層は黄灰色土、7層は灰白色粘土、8層は灰白色小礫混じり粘質土、9層は明黄褐色粘土（地山）である。

4層から6層は土質等の観察により耕土層と考えられる。4層～6層より遺物は出土していない。

地山面において遺構検出を行い、調査区北東隅において土坑を検出した。土坑の深さは約0.2mである。埋土は上層が灰白色粘土（7層）、下層は灰白色小礫混じり粘質土（8層）であり、下層より土師器、瓦器が出土している。遺構の時期は、出土遺物により中世と考えられる。

（木嶋）



- 1 : 盛土1
- 2 : 盛土2 (2.5Y6/6 明黄褐色粘土混じり 2.5Y5/3 黄褐色土)
- 3 : 盛土3 (5Y4/1 灰色砂礫混じり土)
- 4 : 10YR6/6 明黄褐色粘土（地山）

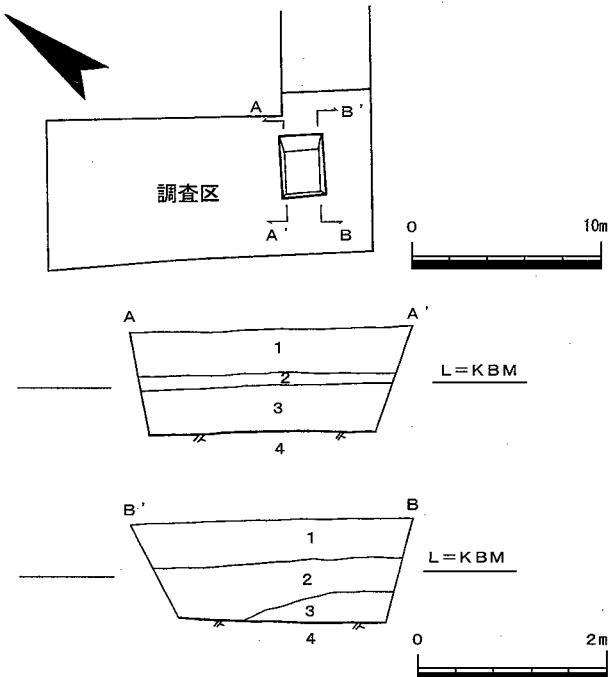


図5 2009-10区

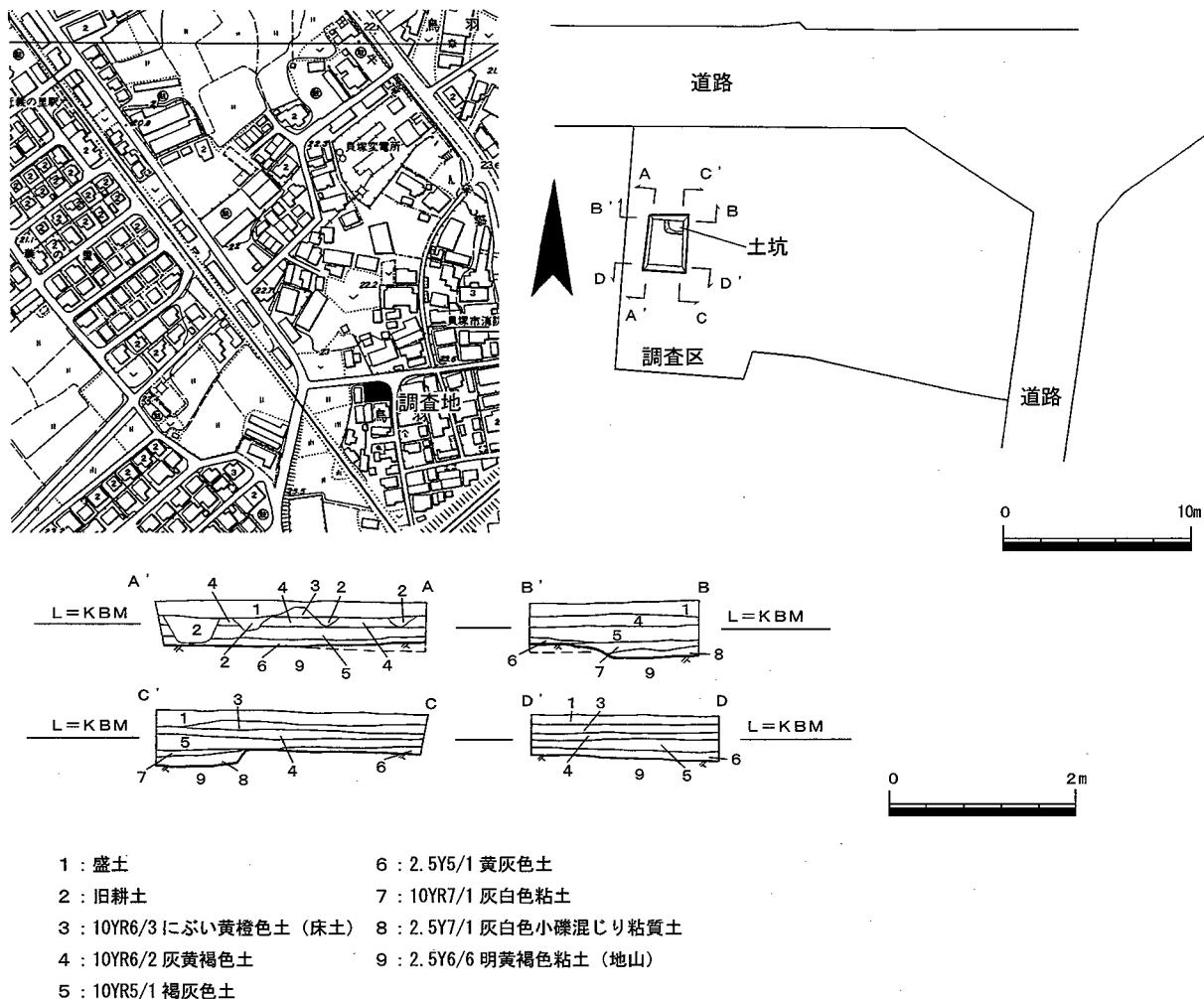


図6 2009-19区

3. 新井・鳥羽遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約18mに位置する。周知の遺跡として、弥生時代から室町時代にかけての集落跡と推定している。

本遺跡においては、弥生時代・古墳時代の溝、平安時代の掘立柱建物跡を検出しており、縄文時代から中世にかけての遺物が出土している。本市による昭和53年度（1978年）の調査では、奈良時代の掘立柱建物跡1棟、平安時代の土坑を検出している。遺物は、奈良時代の瓦、平安時代の土師器、黒色土器、綠釉陶器、鉄器等が出土している。

2008-39区の調査（図7・図版2）

本調査は、新井136-6他において実施した。調査は、申請地内において調査区（4.5m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土、2層は旧耕土、3層はにぶい黄色土（床土）、4層は黄灰色砂混じり灰黄褐色粘質土、5層は黄色粘土（地山）である。

調査区南西側において段差があり、一段下がった部分に4層が堆積している。4層より遺物は出土していないため時期は不明である。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

申請地については、溜池の隣接地にあたり、堤の築堤や耕地開発等により土地の削平を受けた可能性がある。

（木嶋）

4. 新井ノ池遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約 28 mに位置する。周知の遺跡として、弥生時代から古墳時代、中世にかけての散布地、集落跡と推定され、中世に熊野詣で賑わった熊野街道沿いに位置する。これまでの調査により平安時代の掘立柱建物跡や中・近世の耕地跡に伴う鋤溝、溝等を検出している。

2009 - 25 区の調査（図 8・図版 2）

本調査は、麻生中 821-12、823-6において実施した。調査は、申請地内において調査区（4.5 m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が搅乱（旧浄化槽）、2層は盛土1、3層はにぶい黄色土（盛土2）、4層は灰色土（盛土3）、5層はオリーブ黒色礫混じり粘土である。湧水が著しいため地山は確認できなかった。2層～4層は盛土であり、4層は地盤改良が行われていた。5層は粘土層主体の堆積層であり、湧水が著しいことから池の堆積層の可能性がある。5層より遺物は出土していない。

申請地は、5層の粘土層により申請地の東方向に位置する新井ノ池の範囲に含まれていた可能性がある。

（木嶋）

5. 堤三宅遺跡

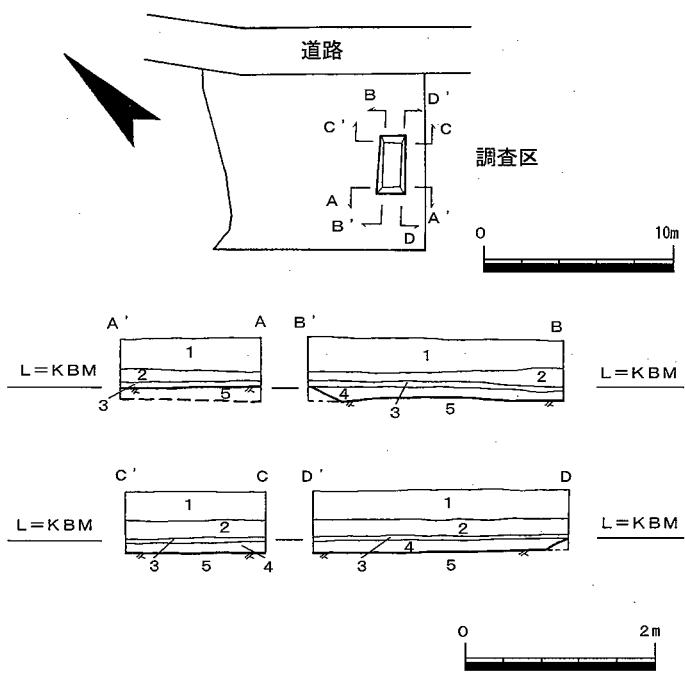
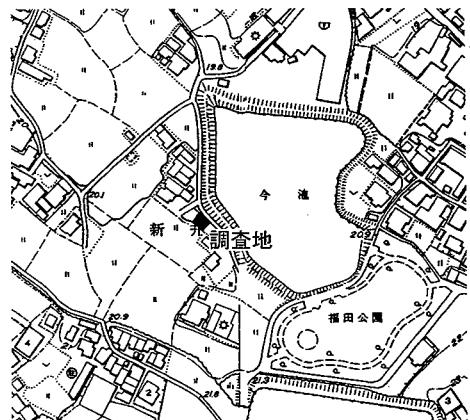
本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約 18 mに位置する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定している。本市による平成 16 年度（2004 年）の確認調査においては、中世の遺物包含層を確認しており、土師器、須恵器が出土している。本遺跡の東側に位置する堤西浦遺跡より古代と中世の遺物包含層を確認している。

2008 - 43 区の調査（図 9・図版 4）

本調査は、窪田 1-3 において実施した。調査は、建物部分において調査区（9 m²）を設定して行った。

調査区の層序は、第1層が盛土、第2層は旧耕土、第3層はにぶい黄橙色土、第4層は黄灰色土、第5層はにぶい黄橙色土混じり褐灰色土、第6層は黄灰色細砂混じり土、第7層は明黄褐色砂礫（地山）である。

調査区壁面4層は、南壁面においても確認しているため、溝と考えられる。溝の時期については、埋土に第3層の土が混在していることにより、近代以降に設けられたものと考えられる。



- 1 : 盛土
2 : 旧耕土
3 : 2.5Y6/3 にぶい黄色土（床土）
4 : 2.5Y6/1 黄灰色砂混じり 2.5Y6/2 灰黄褐色粘質土
5 : 2.5Y7/8 黄色粘土（地山）

図 7 2008-39 区

第4層と第5層より遺物は出土していないが、土質等の観察により遺物包含層と考えられる。第6層より土師器、瓦器が出土している。第4層から第6層は中世の遺物包含層と考えられる。

地山面において遺構検出を行い、鋤溝2条と落込み状遺構3基を検出した。

2条の鋤溝は南北方向であり、遺物は出土していない。鋤溝の埋土は褐灰色土である。

3基の落込み状遺構の埋土は黄灰色砂質土から小礫が混じる砂質土であり、土師器、瓦器が出土している。これらの落込み状遺構は、人為的に掘削されたものではなく、地形の窪地と考えられる。

調査区で検出した遺物包含層や鋤溝により申請地は中世の耕地跡と考えられる。

(木嶋)

6. 窪田ハマデ遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高約18mに立地する。周知の遺跡として、中世の集落跡と推定している。本遺跡の東には堤三宅遺跡があり、本市による平成16年度（2004年）の確認調査では、中世の遺物包含層を確認している。また、本遺跡の西には窪田遺跡・窪田廃寺があり、昭和59年度（1984年）の発掘調査では、14世紀後半ごろと推測される土坑状遺構1基、ピット3基を検出している。

2009-22区の調査（図10・図版3）

本調査は、窪田14-1において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分と建物部分において2箇所の調査区（計12.75m²）を設定して行った。

調査区1・2の層序は、1層が盛土、2層は旧耕土、3層は黄灰色土混じりにぶい黄色粘質土（床土）、4層はにぶい黄色土混じり灰白色粘質土、5層は黄灰色粘土、6層は灰黄褐色土混じり黄灰色粘土、7層は黄灰色粘土、8層は灰色粘質シルト、9層は黒褐色粘土、10層は明黄褐色粘土（地山）である。3層～6層は遺物包含層であり、土師器、瓦器が出土している。土質の観察等により中世の耕土層と考えられる。

調査区1の地山面および調査区2の7層上面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

調査区2においては、7層～10層は粘土層であり、滯水状態であったと推測される。調査区2は湧水が著しいため地山は確認できなかった。

申請地においては、西側（調査区2）で粘土層を検出したことにより湿地もしくは沼が存在し、8層より瓦器が出土していることから中世に埋没したと推測される。中世には耕地として利用されたものと考えられる。（木嶋）

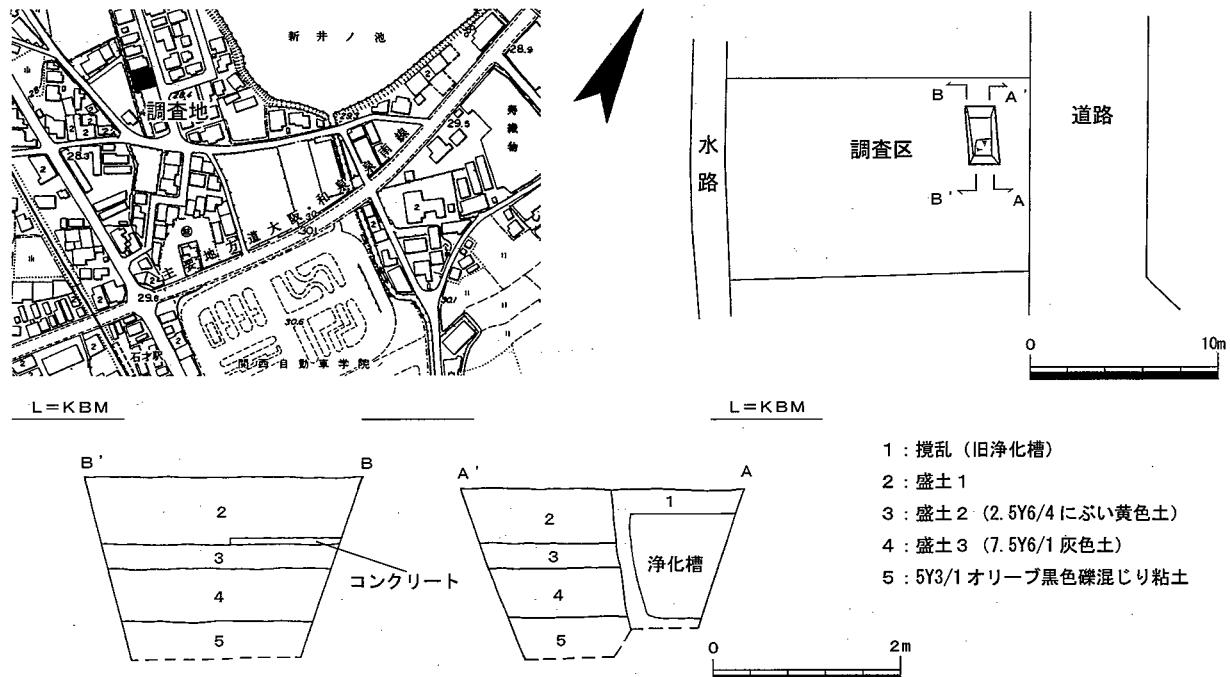


図8 2009-25区

7. 窪田遺跡・窪田廃寺

本遺跡は、弥生時代から中世にかけての遺物散布地ならびに寺院跡である。昭和59年度（1984年）に実施した調査では、溝2条、土坑状遺構2基、ピット3基、落込み状遺構を検出している。遺物は、溝より瓦器、土師器、青磁、陶器等が、土坑状遺構より瓦器、土師器、青磁等が出土している。これらの遺構は13世紀後半から14世紀のものと考えられる。

本遺跡の西に漬池遺跡があり、奈良時代から中世にかけての集落跡である。昭和59年度（1984年）に実施した発掘調査では、土坑状遺構1基、ピット3基を検出している。これらの遺構は14世紀後半ごろと推測される。

2009-23区の調査（図11・図版4）

本調査は、王子1012-10、1012-11の一部において実施した。調査は、申請地の浄化槽部分において調査区（6m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土、2層は搅乱、3層は褐灰色砂混じり粘質土、4層は褐灰色粘質土、5層は明黄褐色粘土（地山）である。

3層・4層は遺物包含層と考えられ、3層より瓦器が出土している。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

調査区の北東側は、建物のコンクリート基礎が存在していた。そのため、調査区の東壁は大きく搅乱を受けており、遺物包含層は失われていた。

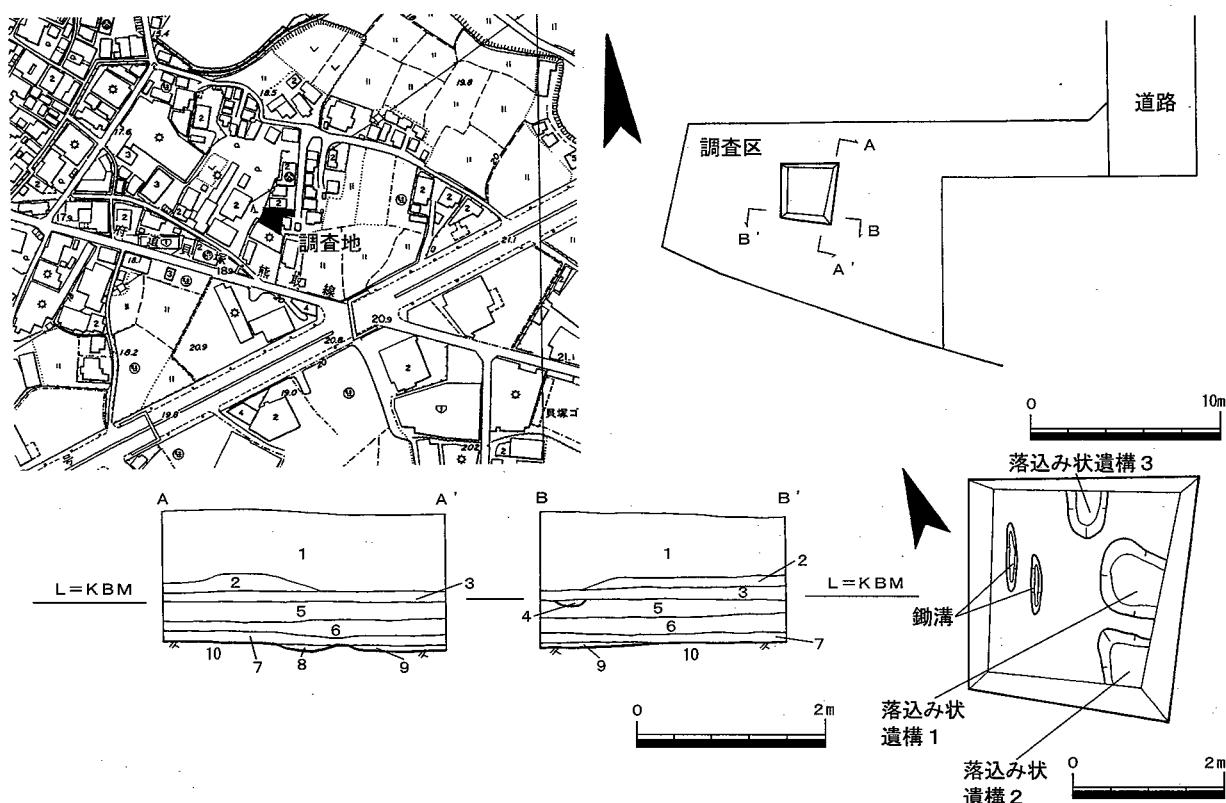


図9 2008-43区

申請地は、中世の遺物包含層を確認したが、調査区東側は建物等による搅乱を受けている可能性がある。(木嶋)

8. 名越遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高 32 ~ 38 m に位置する。周知の遺跡として、中世の散布地に推定しており、これまでの調査により耕地跡や溝跡等を検出している。本遺跡の西に名越西遺跡があり、古墳時代前期の溝を検出したほか、弥生時代中期以降の土器が出土している。

2008 - 42 区の調査 (図 12・図版 6)

本調査は、清見 1034-3において実施した。調査は、申請地内において調査区 (6 m²) を設定して行った。

調査区の層序については、1層から5層は搅乱であり、6層は明黄褐色粘質シルト(地山)である。4層・5層からは近世後半以降の磁器や瓦とともにコンクリート片や電気配線等が出土していることから、近代から現代にかけての搅乱と考えられる。地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

4層については、平面形状が不定形な円形であり、その掘削形状等から廃棄物を埋めるために掘削したものとは異なると思われ、便所等の施設であった可能性もある。
(木嶋)

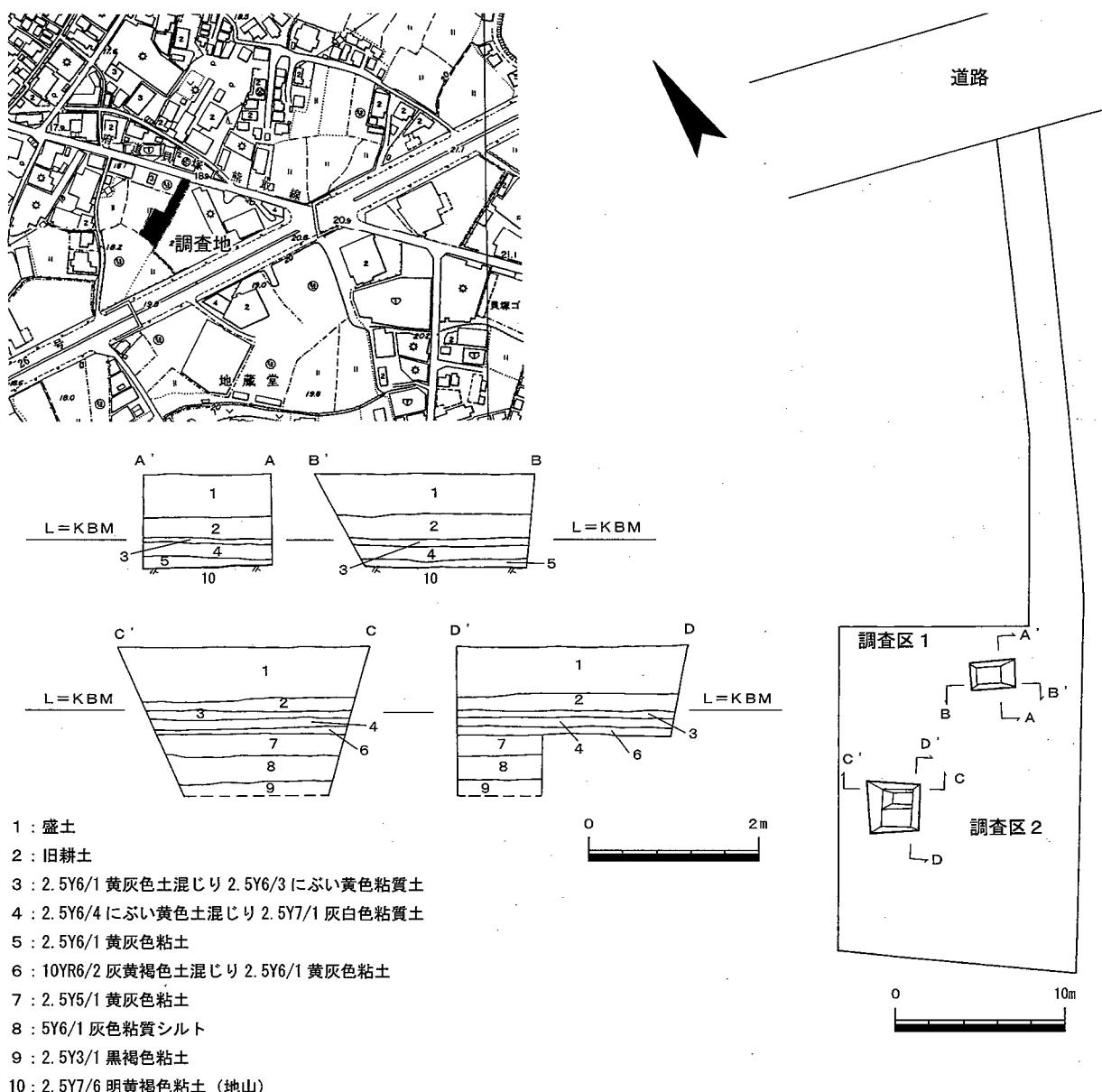


図 10 2009-22 区

9. 清児遺跡

本遺跡は、近木川右岸の中位段丘上、標高 32 ~ 38 m に位置する。これまでの調査より本遺跡やその南東部に位置する名越遺跡では、耕地跡や溝跡等を検出している。また昭和 63 年度（1988 年）（財）大阪府埋蔵文化財協会（現：（財）大阪府文化財センター）の調査では、平安時代の掘立柱建物跡、中世の柱穴群や耕作に伴う溝が検出されている。

2008 - 49 区の調査（図 13・図版 5）

本調査は、麻生中 750-5 において実施した。調査は、浄化槽部分において調査区（3.75 m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1 層が盛土、2 層は耕作土、3 層は灰オリーブ色砂混じり土、4 層は暗灰黄色土、5 層は褐灰色粘土（地山）である。

地層の状況から判断して、3 層・4 層は耕土層と考えられる。また、地層が削平されており、遺構は存在しなかった。遺物は出土していない。（三浦）

2009 - 11 区の調査（図 13・図版 5）

本調査は、麻生中 85-22 において実施した。調査は、浄化槽部分において調査区（6 m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1 層・2 層が盛土、3 層は黒褐色土（旧耕土）、4 層は灰オリーブ色土（床土）、5 層はオリーブ黄色礫（地山）である。5 層においては湧水が著しいため、遺構検出はできなかった。

地山は削平されている可能性があり、遺物包含層は確認できなかった。（木嶋）

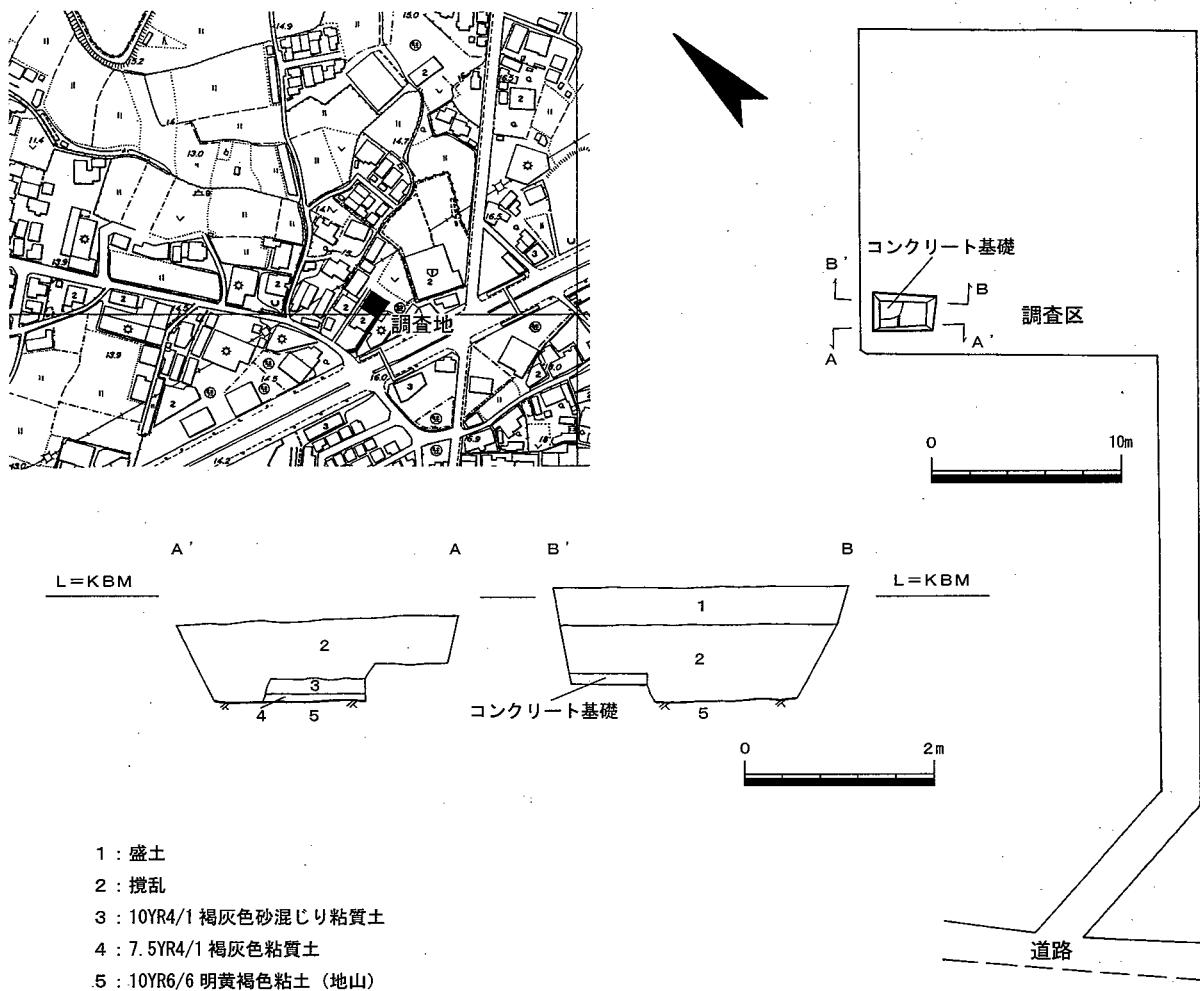


図 11 2009-23 区

10. 地蔵堂遺跡

本遺跡は、近木川左岸の中位段丘上、標高22～23mに位置する。これまでの調査では、中・近世の耕地跡、中世の素掘り井戸等を検出している。本遺跡の範囲は前方後円墳である地蔵堂丸山古墳、平安時代の寺院跡である地蔵堂廃寺を包括する。地蔵堂丸山古墳は、本市による平成14年度（2002年）の調査により墳丘に伴う葺石及び埴輪列を検出した。出土した円筒埴輪から古墳は4世紀末に築造されたと考えられる。

2008 - 45 区の調査（図14・図版6）

本調査は、王子1195において実施した。調査は、申請地（南近義神社）内の倉庫部分において調査区（7.5 m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が木の根を掘り起こした痕跡（搅乱）、2層は盛土、3層は黒褐色土（旧表土）である。4層から6層は整地層であり、木の根の影響により土質が異なると考えられる。7層はぶい黄橙色粘土ブロックであり、整地層に地山のブロック土が混在しているものと考えられる。8層は黄褐色粘土（地山）である。

3層は細かい根が密集する土壤化層であり、旧表層と考えられる。4層・6層で瓦片が数点出土しているが、整地層に2次的に混在するものと考えられる。

地山面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。また、地山面の起伏は木の根の影響によるものである。

調査区においては、土地の削平により遺物包含層や遺構は確認することができなかった。土地の削平の時期については不明であるが、土質等の観察によりおそらくは近代以降に行われた可能性がある。この土地の削平が境内全域に及ぶかは不明である。

（木嶋）

2009 - 16 区の調査（図14・図版7）

本調査は、地蔵堂139-11、139-52、132-3、713-3において実施した。調査は、申請地の建物部分において調査区（8.1 m²）を設定して行った。

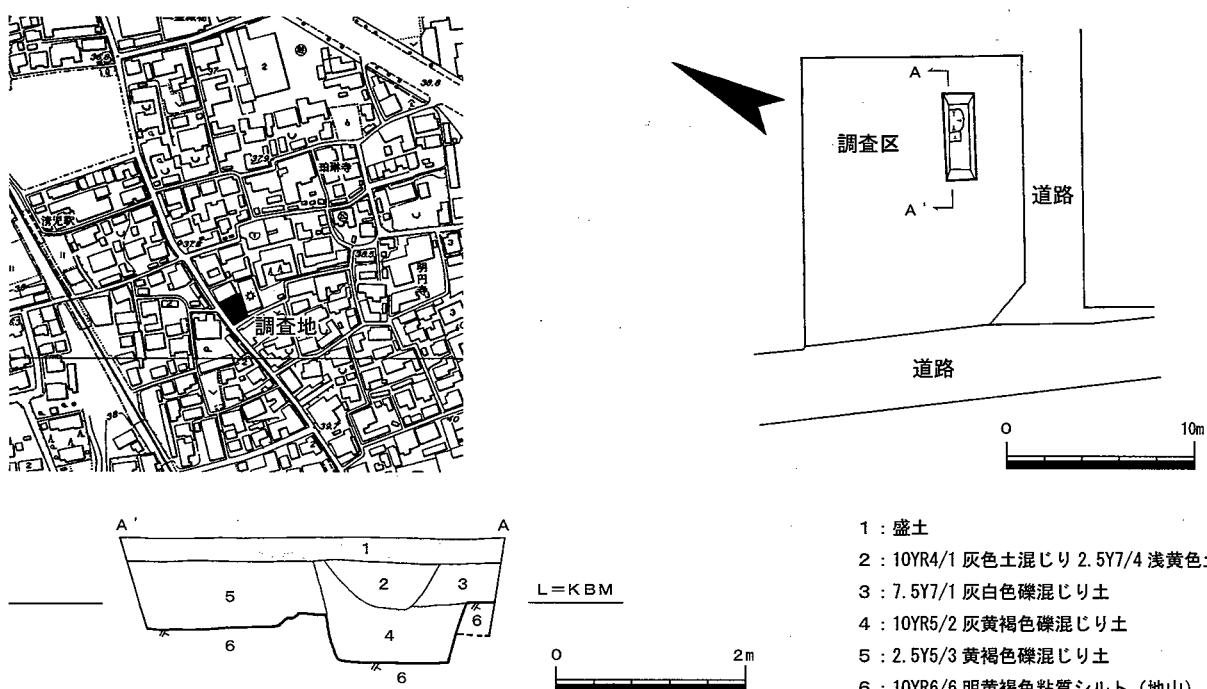


図12 2008-42区

調査区の層序は、1層が盛土、2層は緑灰色粘質土、3層は灰色粘質土、4層は緑灰色砂混じり粘質土、5層は青灰色砂混じり粘土、6層はオリーブ灰色粗砂混じり粘土（オリーブ黒色粘土ブロック混入）である。

4層より缶や鉄筋等を確認し、6層ではオリーブ黒色粘土ブロックが混入しており、1層から6層は盛土と考えられる。2層から6層の堆積層は土質に締まりがなく崩落する可能性があるため、地山面を確認することはできなかった。

地元の人の聞き取りによると、申請地を含む周辺について、宅地化以前は沼地であり、造成工事により埋め立てを行ったようである。今回の調査においては、遺物等を確認することはできなかった。
(木嶋)

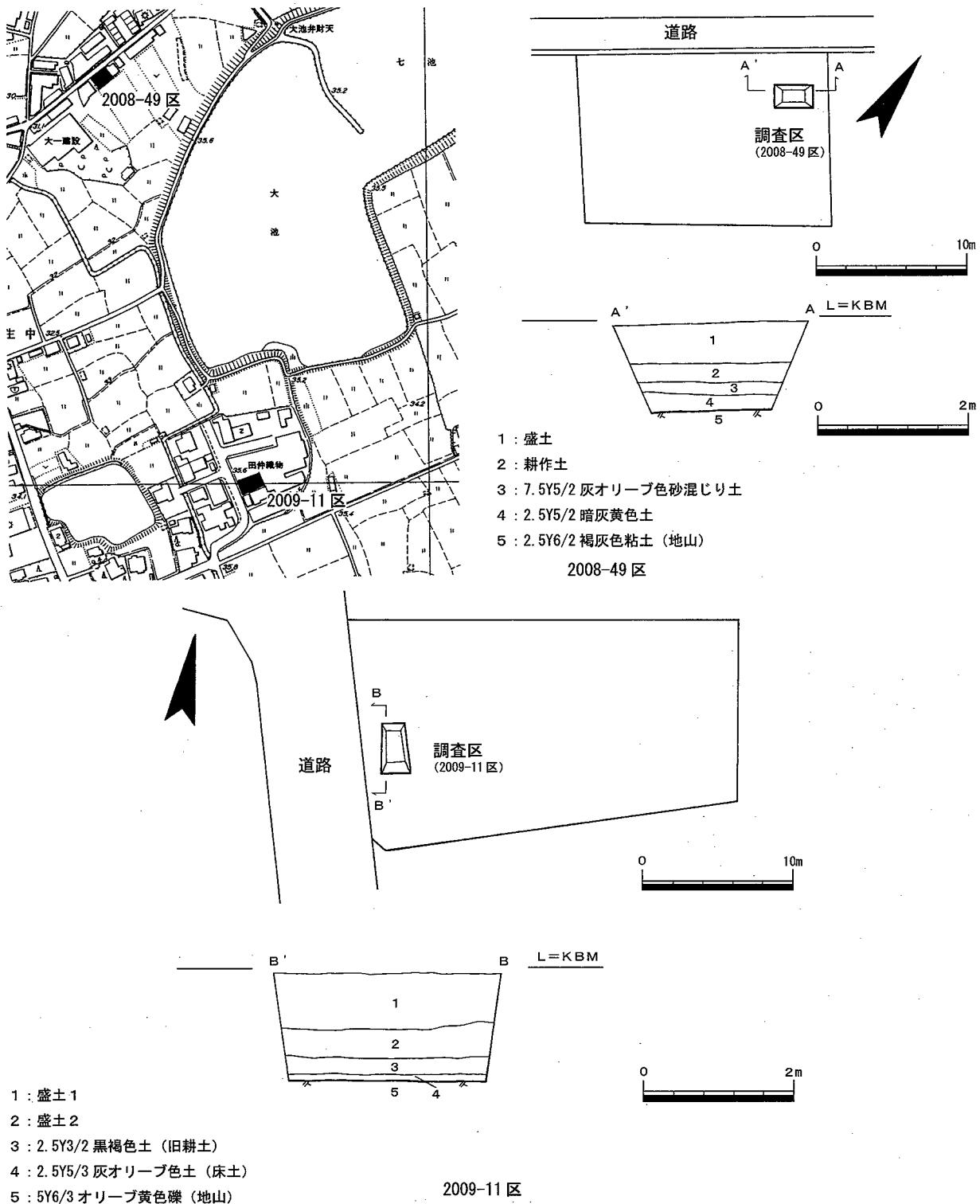
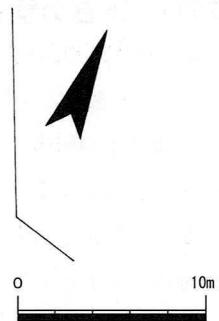
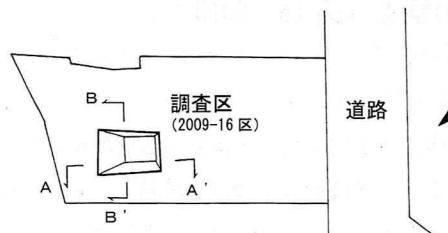
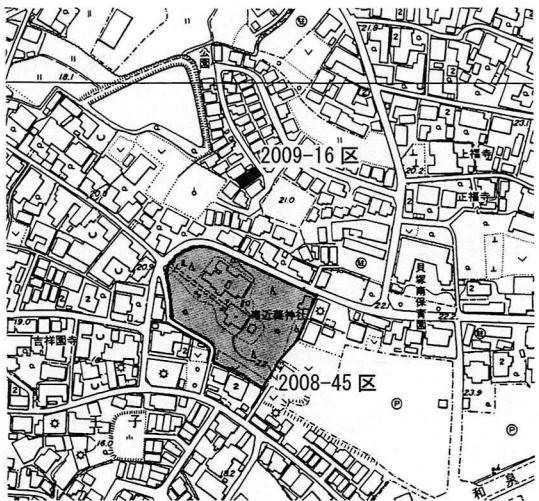
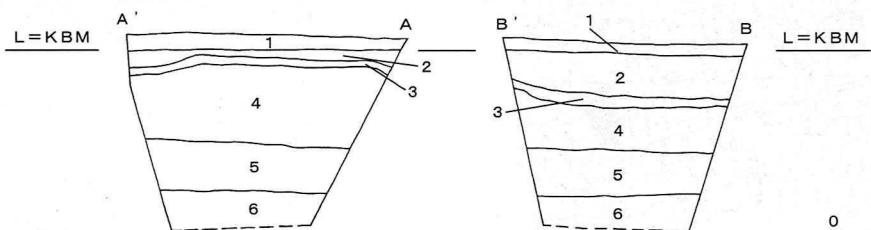


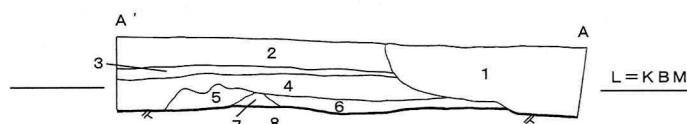
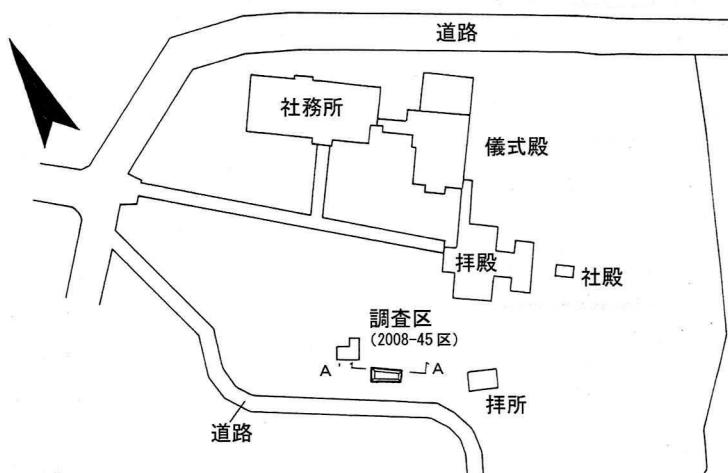
図 13 2008-49 区、2009-11 区



- 1 : 盛土
2 : 5G6/1 緑灰色粘質土
3 : N4/0 灰色粘質土
4 : 7.5GY6/1 緑灰色砂混じり粘質土
5 : 5B6/1 青灰色砂混じり粘土
6 : 5GY6/1 オリーブ灰色粗砂混じり粘土
(7.5Y3/1 オリーブ黒色粘土ブロック混入)



2009-16 区



- 1 : 搅乱 (木の根の掘り起こし痕)
2 : 盛土
3 : 10YR3/2 黒褐色土 (旧表土)
4 : 10YR5/3 にぶい黄褐色土
5 : 10YR6/3 にぶい黄橙色土
6 : 10YR6/2 灰黄褐色土
7 : 10YR6/4 にぶい黄橙色粘土ブロック
8 : 10YR5/6 黄褐色粘土 (地山)

2008-45 区

図 14 2008-45 区、2009-16 区

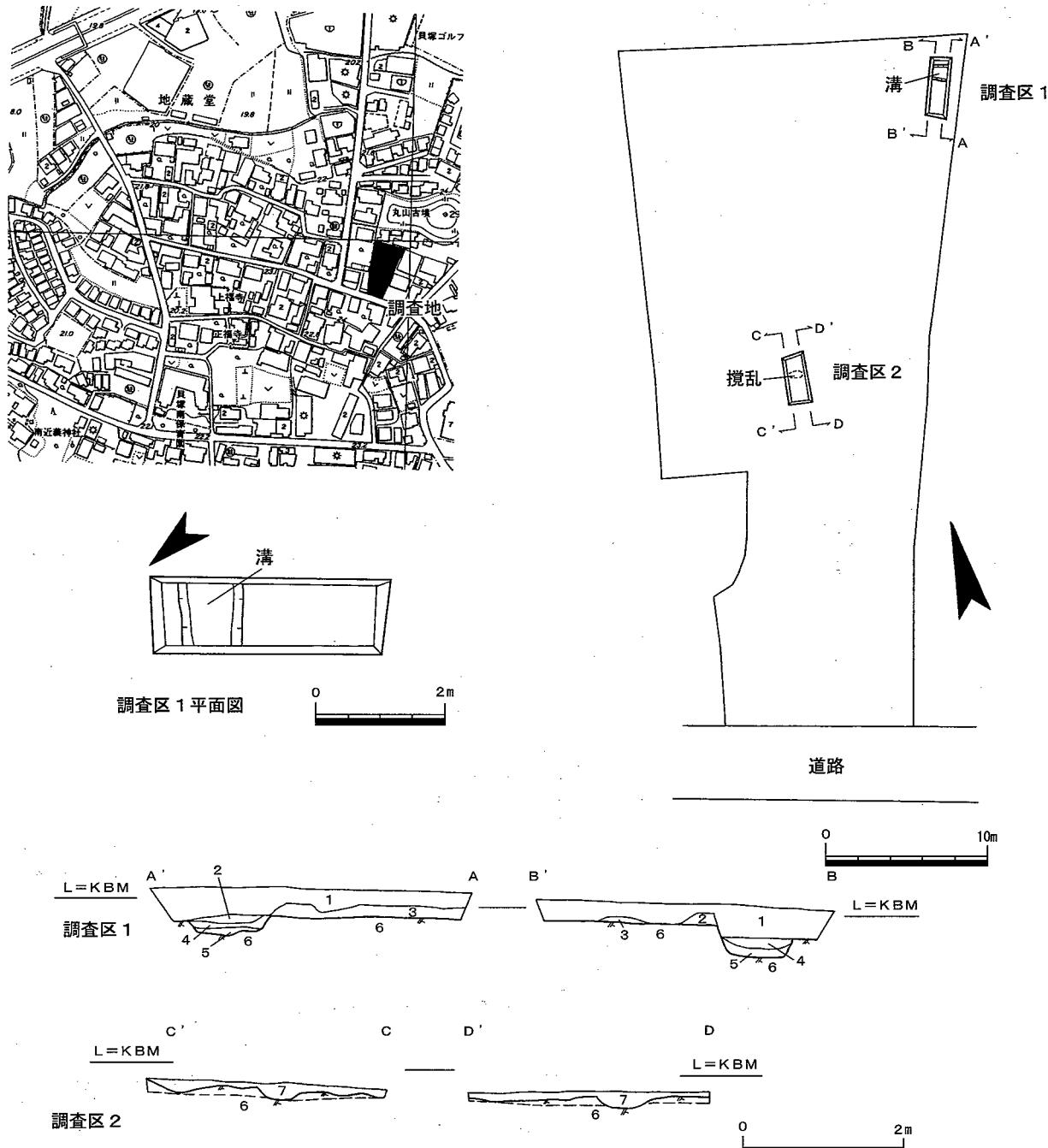
2009 - 26 区の調査 (図 15・図版 7)

本調査は、地蔵堂 278、279 の一部、749 の一部において実施した。調査は、申請地内において 2箇所の調査区（計 9.7 m²）を設定して行った。

調査区 1 の層序は、1層が盛土・搅乱、2層は褐灰色砂混じり粘質土、3層は褐灰色土混じり橙色粘土、4層は灰黄色粘質シルト、5層は黄灰色砂混じり粘土、6層は橙色粘土（地山）である。

2層は搅乱と溝埋土とが混じり、3層は盛土である。1層から3層より近代の陶磁器が出土している。

地山面において遺構検出を行い、溝を検出した。溝の規模は、幅 1 m、深さ 0.1 m である。埋土は上層が灰黄色



- | | |
|---------------------------------------|-----------------------|
| 1 : 盛土・搅乱 | 4 : 2.5Y7/2 灰黄色粘質シルト |
| 2 : 7.5YR5/1 褐灰色砂混じり粘質土（搅乱と溝埋土との混じり） | 5 : 2.5Y5/1 黄灰色砂混じり粘土 |
| 3 : 10YR6/1 褐灰色土混じり 7.5YR6/6 橙色粘土（盛土） | 6 : 7.5YR6/6 橙色粘土（地山） |
| | 7 : 表土・搅乱 |

図 15 2009-26 区

粘質シルト、下層は黄灰色砂混じり粘土である。遺物は土師器、瓦器、瓦が出土している。溝の埋没時期は出土遺物により中世と考えられる。

調査区1は、土地の削平を受けており、溝以外の遺構は確認できなかった。

調査区2の層序は、7層が表土・搅乱、6層は橙色粘土（地山）である。地山面において遺構検出を行ったが、土地が削平されており、遺構および遺物包含層は確認できなかった。

申請地の北側には、4世紀末に築造されたと推定されている地蔵堂丸山古墳が存在するが、今回の調査では古墳時代の遺構や遺物は確認できなかった。
(木嶋)

11. 貝塚寺内町遺跡

本遺跡は、本市北西部の海岸部の標高は2～11mに位置する。願泉寺を中心として中世末期に成立した寺内町であり、周囲に濠や土塁をめぐらせた城郭寺院跡である。願泉寺は天正年間には一時、本願寺が置かれるなど真宗寺院のなかでも特別な存在であった。本遺跡の調査では、濠、土塁の他、溝、土坑、井戸、埋甕、水琴窟等の近世後半の遺構を多数検出している。遺物は瓦、陶磁器、土器が出土、供膳具、調理具、暖房・照明具等が多数出土している。

2009 - 7区の調査（図16・図版8）

本調査は、北町493の一部において実施した。調査は、申請地の建物部分で調査区（9m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が盛土、2層は搅乱、3層はにぶい黄色砂、4層は灰白色粘土、5層は暗灰黄色砂、6層は灰黄褐色土、7層はにぶい褐色焼土混じり砂質土、8層は灰黄褐色土、9層はにぶい黄橙色砂、10層はにぶい黄橙色砂混じり褐灰色土、11層は灰黄褐色炭化物混じり粘質土、12層はにぶい黄橙色砂、13層は黒色炭化物層、14層はにぶい黄橙色粘土と褐灰色粘土が混じる、15層は黄褐色砂である。

3・5・8・12層は砂を主体とする整地層と考えられ、土質に締まりがなく、遺物は出土していない。

4・7・11・13・14層は、土質に締まりがあることから、土間層と考えられる。4・14層は粘土を主体としているが、7・11・13層は焼土や炭化物が主体となっている。7・11・13層は火災跡の土砂を利用したものと考えられる。7・13層で瓦、陶器が出土している。13層より出土した丸瓦の凹面には、糸切り痕が認められることから、13層は16世紀後半以前の可能性がある。

7・11・13・14層上面において遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。調査区北壁面において土間層を掘り込んだ土坑（9・10層）を検出した。土坑より遺物は出土していない。

本申請地より北東方向の地点で平成18年度（2006年）に発掘調査が行われており、中世末から近世初頭にかけての焼土層が検出されている。本申請地の焼土層（13層）との対応関係は不明であるが、今後、周辺の調査例が増加すれば、焼土層の時期や広がりが明らかになる可能性がある。
(木嶋)

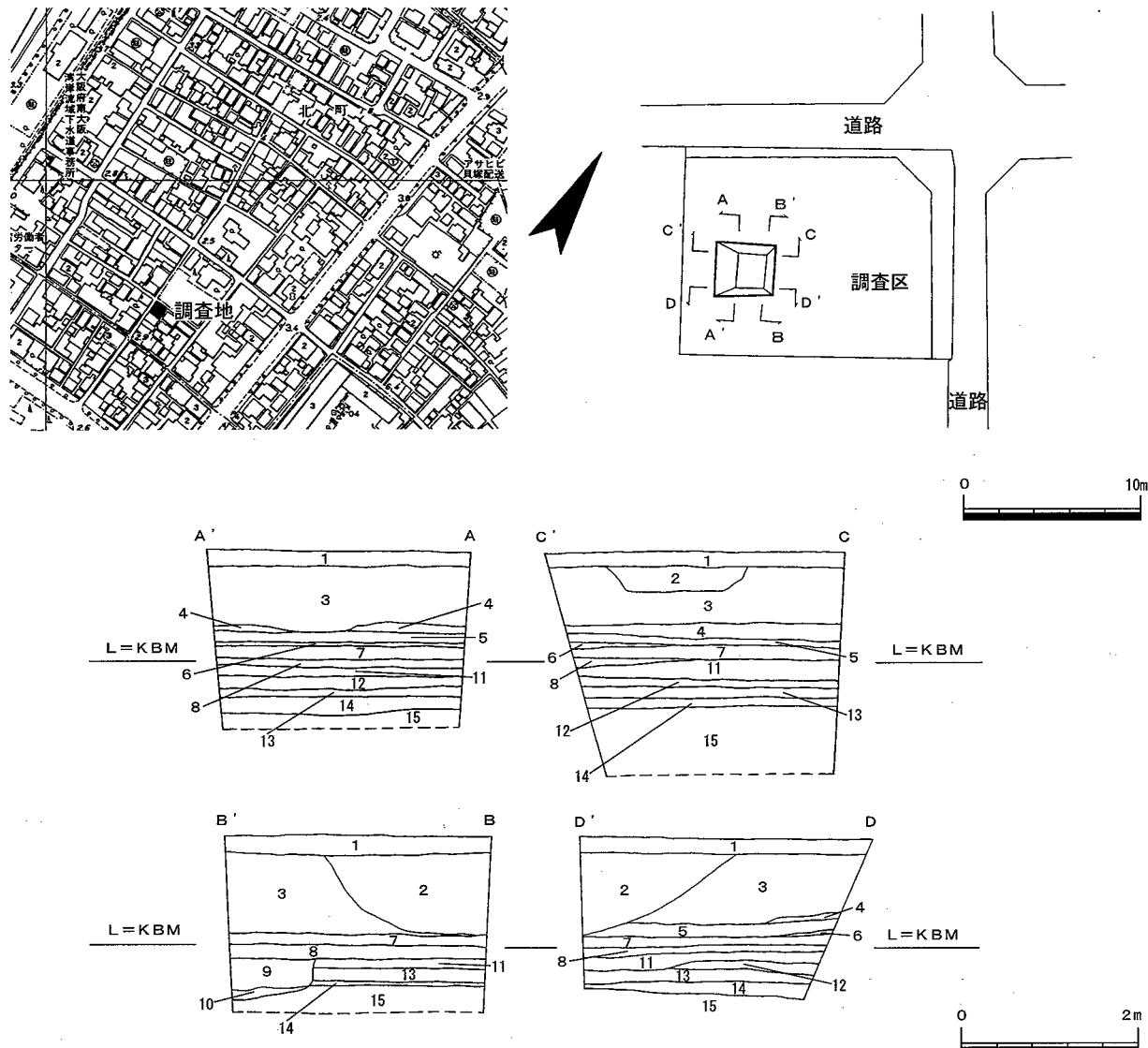
2009 - 14区の調査（図17・図版8）

本調査は、南町1069～1073において実施した。調査は、申請地内において調査区（6m²）を設定して行った。

調査区の層序は、1層が表土、2層は盛土および搅乱、3層は浅黄色砂と青灰色砂、4層は黒褐色粘質シルト、5層は褐灰色シルト、6層は黄褐色粘質シルトと青灰色粘質シルトであり、地山と考えられる。

3層は砂層であり、上層が削られている可能性がある。3層より遺物は出土していない。4層と5層は粘質シルト～シルトであり、4層より土師質土錐が出土している。4層と6層の各上面で遺構検出を行ったが、遺構は確認できなかった。

申請地は、4層・5層の粘質シルト～シルトにより滞水状態にあったと考えられる。3層の砂層は水路もしくは流路より砂が流れ込んだものと考えられる。



- 1 : 盛土
 2 : 搅乱
 3 : 2.5Y6/3 にぶい黄色砂（土質に締まりがない）
 4 : 2.5Y7/1 灰白色粘土
 5 : 2.5Y5/2 暗灰黄色砂（土質に締まりがない）
 6 : 10YR5/2 灰黄褐色土
 7 : 7.5YR5/3 にぶい褐色焼土混じり砂質土（土質に締まりがある）
 8 : 10YR6/2 灰黄褐色土
 9 : 10YR6/3 にぶい黄橙色砂
 10 : 10YR6/3 にぶい黄橙色砂混じり 10YR4/1 褐灰色土
 11 : 10YR5/2 灰黄褐色炭化物混じり粘質土（土質に締まりがある）
 12 : 10YR6/3 にぶい黄橙色砂（土質に締まりがない）
 13 : 5Y2/1 黒色炭化物層（7.5YR4/4 褐色焼土ブロックが混じる）（土質に締まりがある）
 14 : 10YR6/4 にぶい黄橙色粘土と 10YR5/1 褐灰色粘土が混じる
 15 : 2.5Y5/3 黄褐色砂

図 16 2009-7 区

申請地は、段丘下に位置しており、現在、段丘に沿って水路が設けられている。検出した3層～5層の堆積層については、水路が設けられる以前は湿潤地であったものと推測される。3層～5層の時期については不明であるが、土錐以外に遺物が出土していないことから、寺内町が形成される以前の可能性もある。

(木嶋)

2009 - 9 区の調査（図 18・図版 9）

本調査は、中 846において実施した。調査は願泉寺築地壝前面の側溝部分で調査区（1 m²）を設定して行った。

調査区については、側溝の敷石（長さ 60 cm、幅 35 cm、厚さ 10 cm）を 3 枚分外して掘削を行った。敷石の石組み両側には漆喰が施されていた。

調査区の敷石下の層序については、西壁を基準として、第 1 層がにぶい黄色砂混じり土、第 2 層は暗灰黄色砂～砂質土、第 3 層は暗灰黄色砂混じり粘質土、第 4 層は褐灰色粗砂混じり砂質土、第 5 層は灰白色・明黄褐色粘土に暗灰黄色土が混じる、第 6 層は灰白色・明黄褐色粘土（地山）である。

第 1 層から第 4 層については、土質の観察等により数種類の土が混在していることから、側溝の敷石を設置するための盛土と考えられる。第 2 層より瓦、磁器が出土している。第 3 層より瓦、磁器が出土しており、時期は 18 世紀後半以降と考えられる。第 4 層は築地壝の石組みの掘形であり、瓦が出土している。第 5 層は地山面で検出した石に伴う粘土を主体とする層である。

地山面において、側溝の南東側で長軸 20 cm、短軸 10 cm 以上の石を検出し、その東側においても間隔をおいて石が存在する。これらの石の材質は花崗岩であり、その上面は平坦である。石は第 5 層の粘土で固定されているようであり、側溝の石組みに沿って配置されていることから、築地壝建設以前に設けられた施設の礎石もしくは根石の可能性がある。

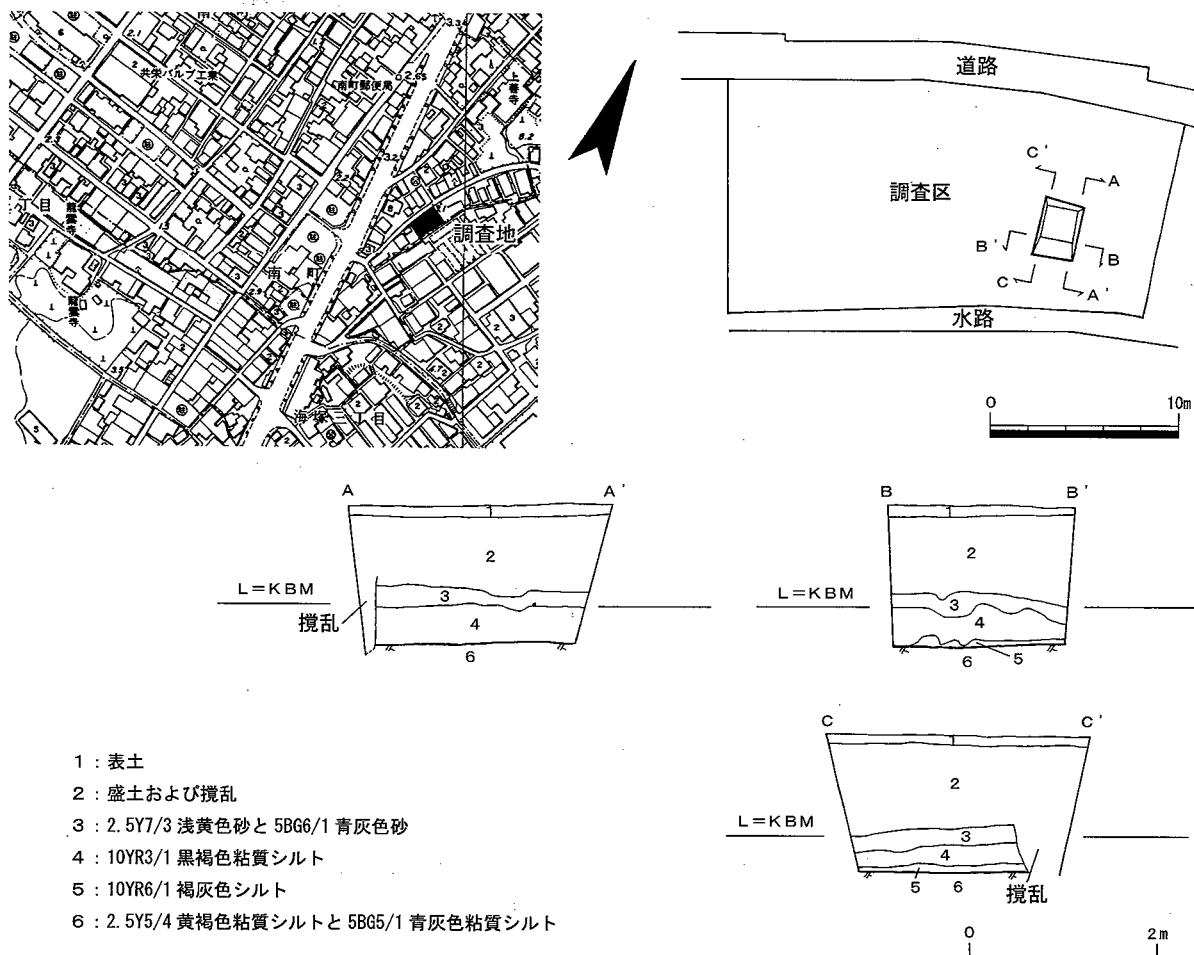
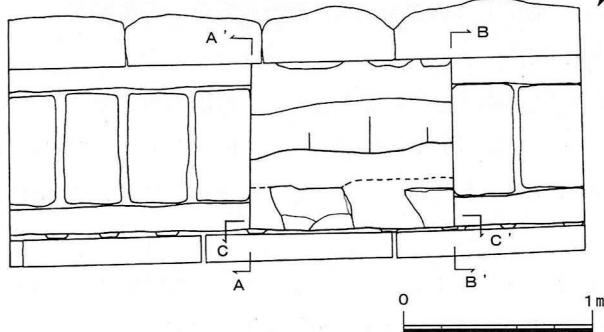
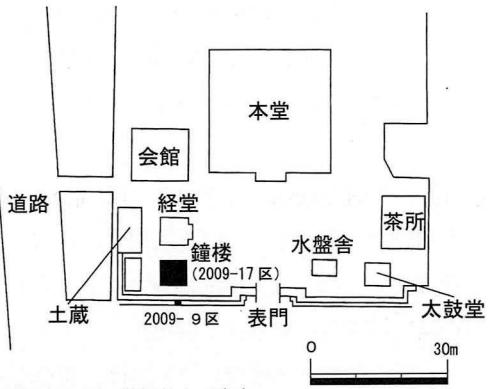
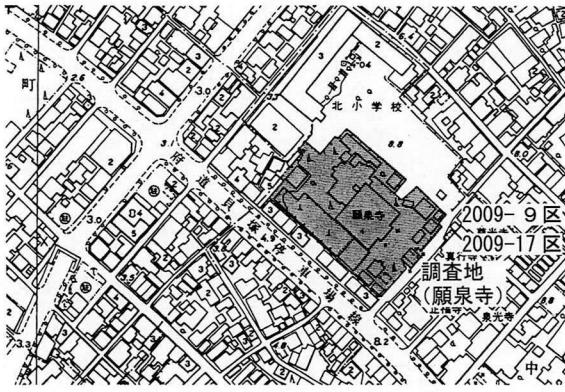


図 17 2009-14 区



- | | |
|------------------------------|---------------------------------|
| 12 : 2.5Y4/1 黄灰色砂質土 | 16 : 10YR5/2 灰黄褐色砂 |
| 13 : 2.5Y4/2 暗灰黄色砂混じり土 | 17 : 2.5Y6/2 にぶい黄色砂混じり粘質土 (第3層) |
| 14 : 2.5Y5/2 暗灰黄色砂～砂質土 (第2層) | 18 : 10YR4/1 褐灰色砂混じり粘質土 (第4層) |
| 15 : 2.5Y5/3 黄褐色土 | 19 : 2.5Y6/1 黄灰色細砂混じり粘質土 (第5層) |

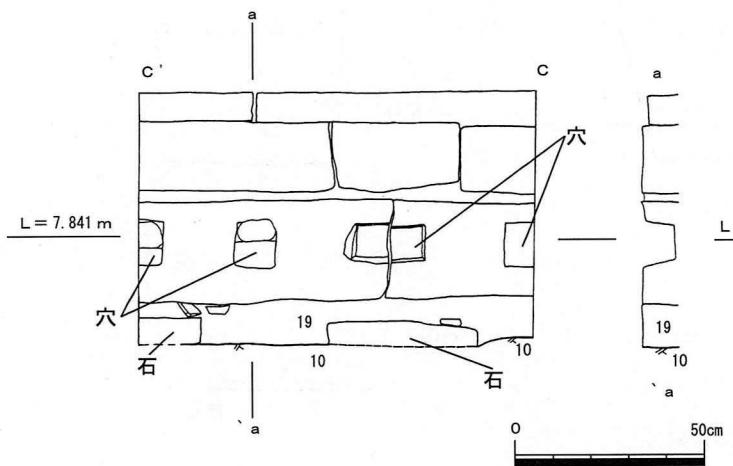
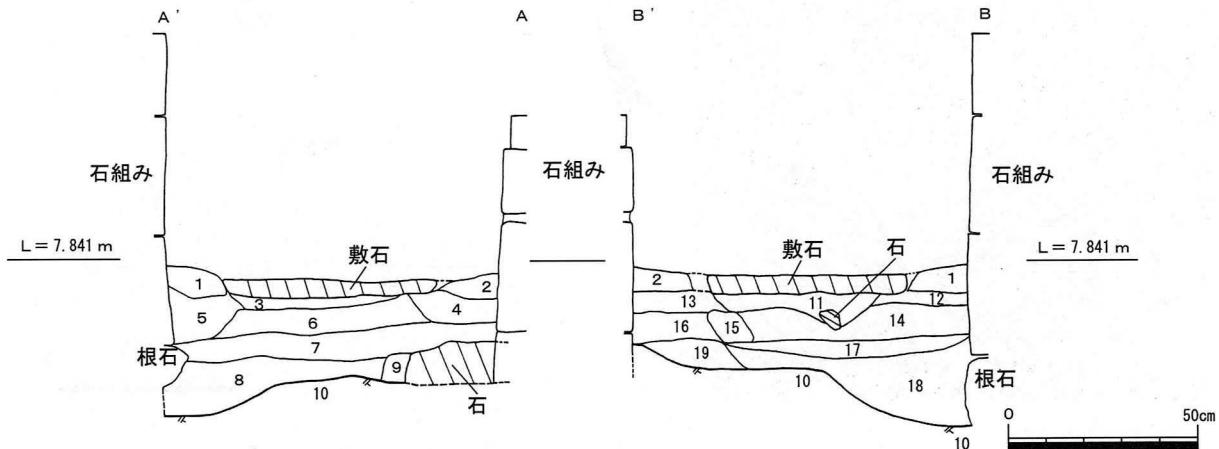


図 18 2009- 9区

側溝の石組み（寺外側）にあけられた穴

側溝の石組みは、上から3段は石組みであり、その下は第5層の粘土層である。穴があけられている石材は上から3段目であり、一辺約10cmの四角形で、穴の間隔は穴の中心から約0.3mごとにはば等間隔で配されている。

穴は漆喰で埋められており、敷石に用いられていたものと同質のものと考えられる。この漆喰を取り除くと、穴の奥行きは6～10cmであり、穴の断面は台形状である。穴より遺物は出土していない。

側溝の石組み（寺外側）の等間隔に存在する穴については、穴が石材を貫通していないことから、排水の機能はなかったと判断される。

(木嶋)

2009-17区の調査（図19・20・図版10・11）

本調査は、中846において実施した。調査は、願泉寺の鐘楼基壇の石組み据え替え工事に際し、鐘楼南面において発掘調査を実施し、基壇部分の断面調査と北西隅と北東隅礎石の据え直しに伴う調査を実施した。（基壇南面断面、調査区断面の番号は対応しない。）

鐘楼南面の調査（図19・図版10）

鐘楼南面（階段の南側）において調査区（1.5m²）を設定した。調査区の層序は、1層が表土および盛土、2層は灰黄色土、3層は灰黄色土、4層はにぶい黄色粘土ブロック混じり土、5層は暗灰黄色土、6層は黄灰色土、7層は灰黄色（粘質）土、8層は黄褐色砂混じり土、9層はにぶい黄色細砂、10層は黄灰色（粘質）土、11層は灰白色粘土と浅黄色粘土、12層は灰黄褐色粘土ブロック混じり土、13層は黄褐色砂、14層は暗灰黄色土、15層は灰黄色粘土ブロック混じり土、16層は明黄褐色粘土と灰白色粘土（礫が混じる）である。

1層～3層は表土および盛土であり、瓦、陶磁器、ガラス等が出土している。4層～6層は石組みの掘形の埋土である。7層は土質が固く締まり、その上面より石組みの掘形が掘り込まれている。さらに7層上面の高さに相当する石組みと階段の角隅部分において、モルタルの塊とモルタルが流れた痕跡を検出した。

7・8・10～12・14・15層は土質が固く締まっている。9層は細砂であり、遺構の可能性もあるが、遺物は出土していない。13層は土質に締まりのない砂を主体としており、遺物は出土していない。16層は礫を含む粘土層である。

鐘楼北西隅礎石の調査（図19・図版11）

鐘楼北西隅の礎石については、石組みを取り外した際に、礎盤とみられる石材を確認したため、現在の礎石との関係について調査を行った。

北西隅礎石付近の層序は、17層が灰黄色土（炭化物・焼土が混入する）、18層は灰黄色小礫混じり土、19層は灰黄色土である。礎石の周囲はモルタルで固められており、礎石の掘形および根石は確認できなかった。現在の礎石は、基壇南面の礎石が戦後に据え直しされているため、北西隅の礎石も据え直しされている可能性がある。礎盤とみられる石材は、北西隅の礎石の西側に割石とともに寄せ集められた状況であった。

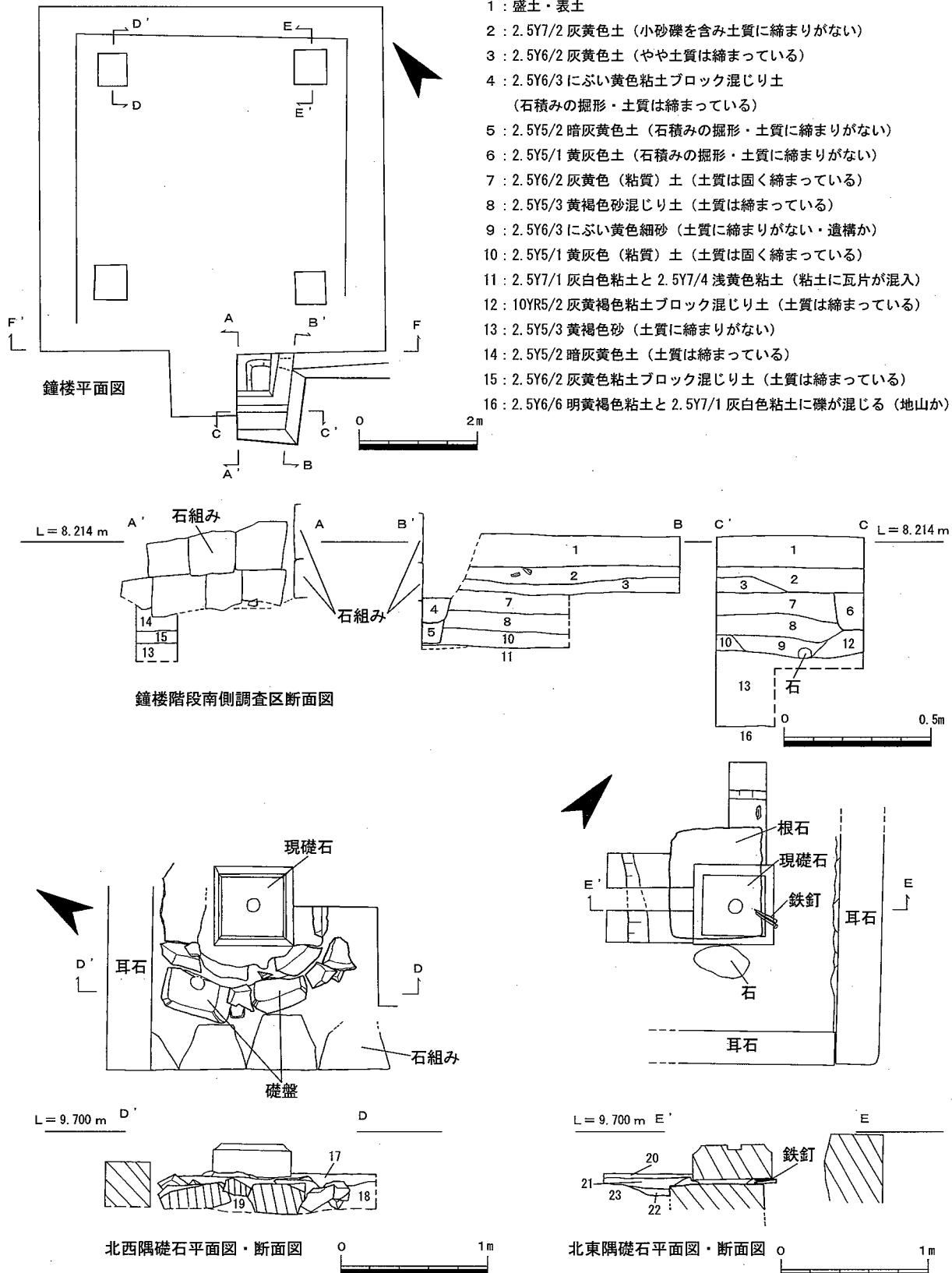
鐘楼北東隅礎石の調査（図19・図版11）

鐘楼北東隅の礎石については、根石の確認のため調査を行った。北東隅礎石の周囲はモルタルで固められていた。現礎石の下で根石（長軸75cm、短軸62cm）を確認した。礎石と根石の間には、礎石を水平に調整するために黄灰色砂～土と数本の鉄釘を確認した。

礎石の西側と北側においてトレーナーを設定した。西側トレーナーの層序は、20層が灰黄色粘質土～砂質土（三和土）、21層はにぶい赤褐色土（焼土）、22層は灰黄褐色粗砂混じり土、23層は灰白色粘土である。20層～22層は空襲以後の層と考えられる。23層は固く締まり、焼土や炭化物が混在していないことから、空襲以前の層と考えられ、検出した根石は移動していないものと推測される。この根石は、鐘楼創建当時のものと考えられる。

基壇南面の断面調査（図20・図版10）

基壇南面の石組みの状況は、上部から3段目までを取り外し、基壇の断面状況を確認した。



- 17 : 2.5Y7/2 灰黄色土 (炭化物・焼土が混入する、土質に締まりがない)
 18 : 2.5Y6/2 灰黄色小礫混じり土 (土質は固く締まっている)
 19 : 2.5Y7/2 灰黄色土 (土質は固く締まっている)
 20 : 2.5Y7/2 灰黄色粘質土～砂質土 (三和土)
 21 : 5Y5/4 にぶい赤褐色土 (焼土)
 22 : 10YR6/2 灰黄褐色粗砂混じり土
 23 : 2.5Y5/1 灰白色粘土 (土質は固く締まっている)

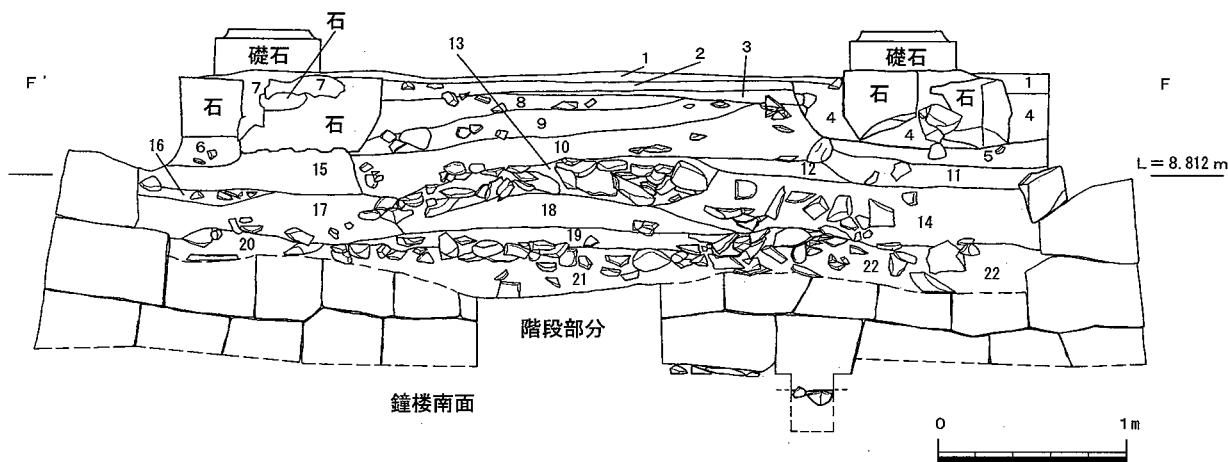
図19 2009-17区(1)

基壇南面の層序は、1層が表土（風化した三和土の可能性）、2層は焼土層、3層は灰色土、4層～6層は礎石埋土、7層は礎石に伴うモルタル、8層はにぶい黄橙色粗砂混じり土、9層は浅黄色粘土と灰白色粘土に灰黄色土が混じる、10層は灰白色砂礫混じり土、11層は灰黄色礫混じり土、12層は灰白色粗砂混じり土、13層は灰白色土～砂質土（割石を多量に含む）、14層は灰白色粗砂・礫混じり土、15層は灰黄色粗砂混じり土、16層は浅黄色粗砂・小礫混じり土、17層は灰黄色粗砂混じり土、18層は灰黄色小砂礫混じり土、19層は浅黄色粘土ブロック混じり土、20層は暗灰黄色土、21層は灰黄色礫混じり土、22層は灰白色砂混じり土である。

基壇上層については、焼土層（2層）を確認した。この層は、太平洋戦争の際、空襲により焼失した鐘楼に伴う焼土と炭化物と考えられる。さらに現在の礎石下の石材の掘形には、焼土や炭化物が多量に混入していたため、現在の礎石は、鐘楼焼失後に据え直されたものと判断される。

3層は土質が固く締まっており、空襲以前の基壇上面（三和土）の痕跡の可能性がある。

基壇は、粘土層と突き固めた層と礫や割石を含む層で互層に施工されている。遺物については、瓦、陶磁器、錢貨等が出土しているが、今回の石組みの取り外し作業で基壇上面の遺物等と混在している可能性がある。（木嶋）



- 1 : 表土（風化した三和土）
- 2 : 5YR5/6 明赤褐色土（焼土・細かい炭化物含む）
- 3 : 10Y6/1 灰色土（三和土層か）
- 4 : 2.5Y7/2 灰黄色小礫混じり土（礎石埋土）
- 5 : 5YR5/6 明赤褐色土と 2.5Y7/2 灰黄色土が混じる（炭化物を多く含む・礎石埋土）
- 6 : 2.5Y7/2 灰黄色土（焼土と炭化物が混入する・礎石埋土）
- 7 : モルタル（礎石に伴う）
- 8 : 10YR7/2 にぶい黄橙色粗砂混じり土（やや土質は締まっている）
- 9 : 2.5Y7/4 浅黄色粘土と 2.5Y8/1 灰白色粘土に 2.5Y7/2 灰黄色土が混じる
(土質は固く締まっている)
- 10 : 5Y7/2 灰白色砂礫混じり土（土質に締まりがない）
- 11 : 2.5Y7/2 灰黄色礫混じり土（礫が多く、土質に締まりがない）
- 12 : 2.5Y8/2 灰白色粗砂混じり土（土質に締まりがない）
- 13 : 5Y7/2 灰白色土～砂質土（割石を多量に含む）
- 14 : 2.5Y8/2 灰白色粗砂・礫混じり土（土質に締まりがない）
- 15 : 2.5Y7/2 灰黄色粗砂混じり土（土質は固く締まっている）
- 16 : 2.5Y7/3 浅黄色粗砂・小礫混じり土（土質に締まりがない）
- 17 : 2.5Y7/2 灰黄色粗砂混じり土（土質は固く締まっている）
- 18 : 2.5Y6/2 灰黄色小砂礫混じり土（土質は固く締まっている）
- 19 : 2.5Y7/3 浅黄色粘土ブロック混じり土（土質は固く締まっている）
- 20 : 2.5Y5/2 暗灰黄色土（やや土質が締まっている）
- 21 : 2.5Y6/2 灰黄色礫混じり土（やや土質が締まっている）
- 22 : 2.5Y8/2 灰白色砂混じり土（やや土質が締まっている）

図20 2009-17区(2)

第3章 平成7年・平成8年の調査

国庫補助事業による平成7年（1995年）・平成8年（1996年）の発掘調査について、概要報告書より一部抜け落ちた調査分があり、改めてここに一覧と位置図を掲載する。

遺跡名	調査番号	遺跡略号	開発地	報告済(○)
(平成7年度)				
1 沢遺跡	第1調査区	S	沢 736 - 1	
2 水間寺遺跡	第2調査区	MD	水間 461	
3 貝塚寺内町遺跡	第3調査区	JN	南町 1326 - 4	
4 三ヶ山西遺跡	第4調査区	MYN	三ツ松 1460、1461 - 1	
5 貝塚寺内町遺跡	第5調査区	JN	西町 644 - 2	○
6 貝塚寺内町遺跡	第6調査区	JN	北町 1123、1126	○
7 沢城跡	第7調査区	SJ	沢 696	○
8 地蔵堂遺跡	第8調査区	GZZ	地蔵堂 301 - 10	
9 新井・鳥羽遺跡	第9調査区	NT	新井 27 - 3	
10 石才南遺跡	第10調査区	ISS	橋本 1059 - 9	
11 森下代遺跡	第11調査区	MS	森 443 - 1	
12 鳥の池西遺跡	第12調査区	TIN	名越 469 他	
13 加治・神前・畠中遺跡	第13調査区	KKH	海塚 327	
14 石才遺跡	第14調査区	IS	石才 597	
15 森下代遺跡	第15調査区	MS	森 461 - 8	
16 貝塚寺内町遺跡	第16調査区	JN	北町 254	
17 貝塚寺内町遺跡	第17調査区	JN	南町 1090 他	○
18 新井ノ池遺跡	第18調査区	NI	麻生中 1073 - 1 他	
19 貝塚寺内町遺跡	第19調査区	JN	北町 20 - 6	○
(平成8年度)				
1 福田遺跡	第1調査区	FD	福田 52 - 1 他	
2 木積遺跡	第2調査区	KT	木積 2108 - 1	
3 地蔵堂廃寺	第3調査区	GZZH	地蔵堂 94 - 6 他	
4 貝塚寺内町遺跡	第4調査区	JN	南町 1185 - 2	
5 貝塚寺内町遺跡	第5調査区	JN	西町 565 - 6	
6 地蔵堂遺跡	第6調査区	GZZ	王子 686 - 3 他	
7 沢西遺跡	第7調査区	SN	沢 170 - 1	
8 王子遺跡	第8調査区	OG	堤 16	
9 貝塚寺内町遺跡	第9調査区	JN	北町 393 - 8	
10 沢城跡	第10調査区	SJ	沢 753 - 6	
11 半田北遺跡	第11調査区	HDK	半田 351 - 7	
12 貝塚寺内町遺跡	第12調査区	JN	北町 393 - 6	○
13 地蔵堂遺跡	第13調査区	GZZ	地蔵堂 294 - 1 他	
14 沢城跡	第14調査区	SJ	沢 1154	

表2. 平成7年・平成8年 国庫補助事業一覧

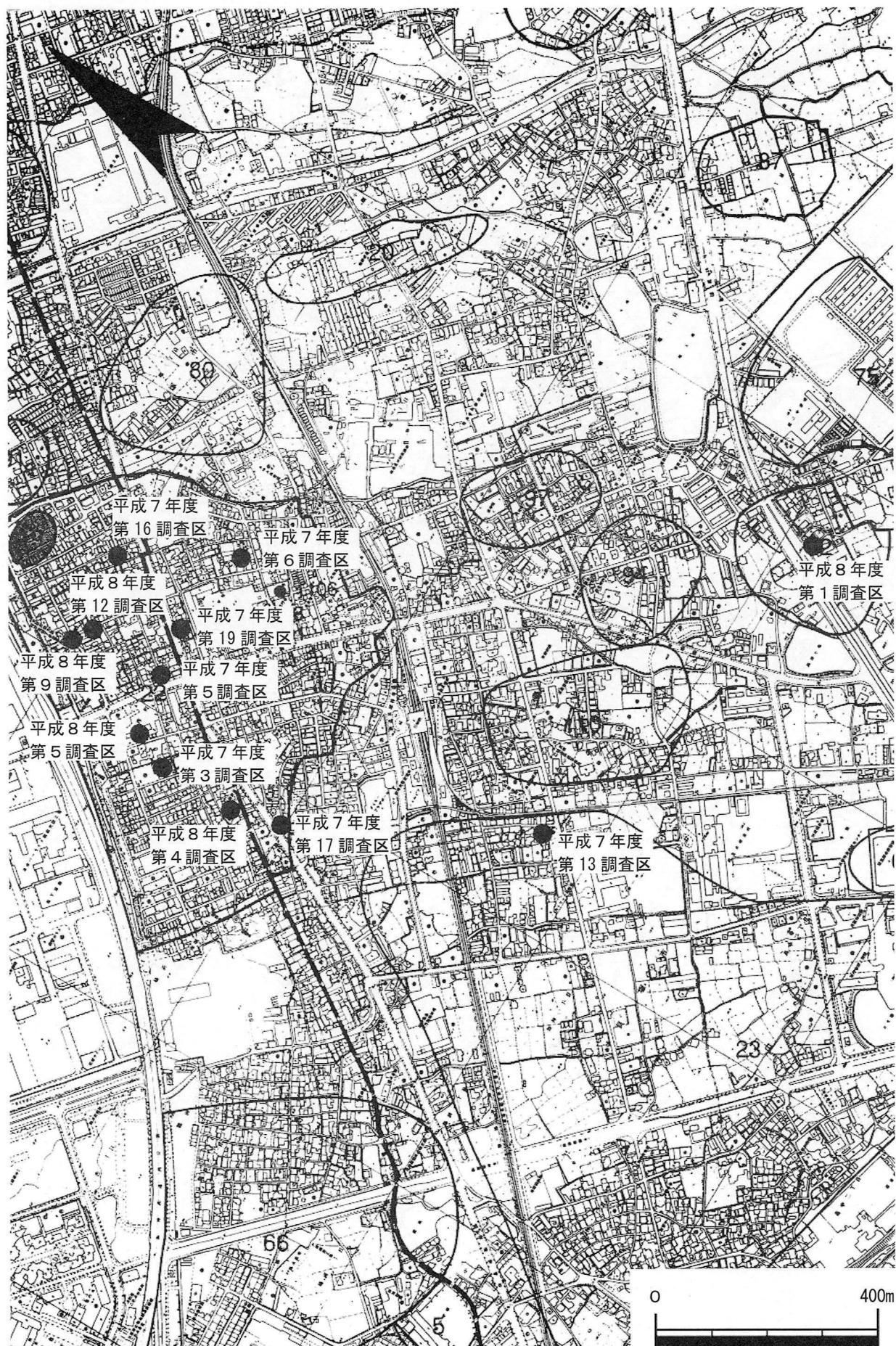


図 21 調査地位置図(平成 7 年・平成 8 年)

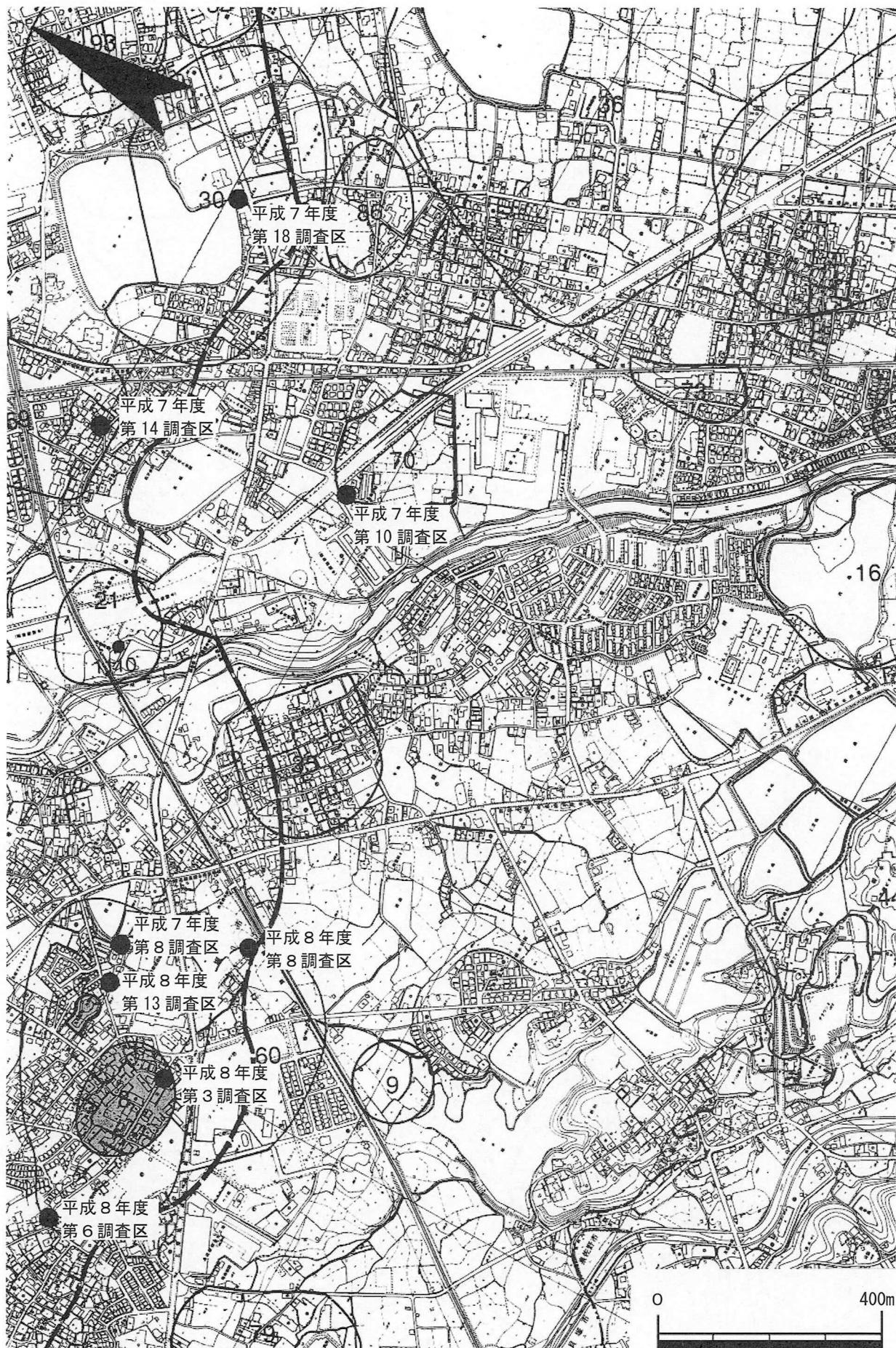


図22 調査地位置図(平成 7 年・平成 8 年)

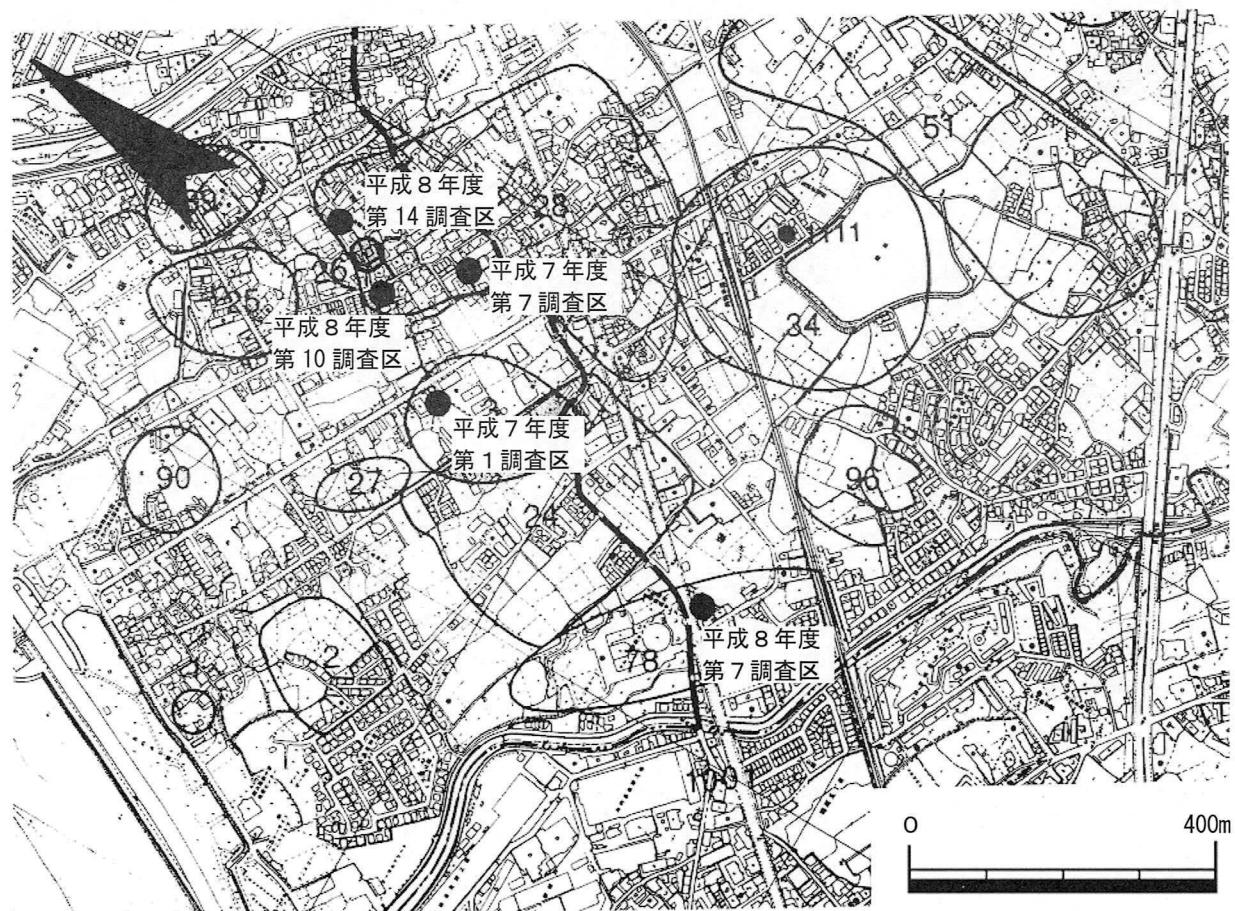
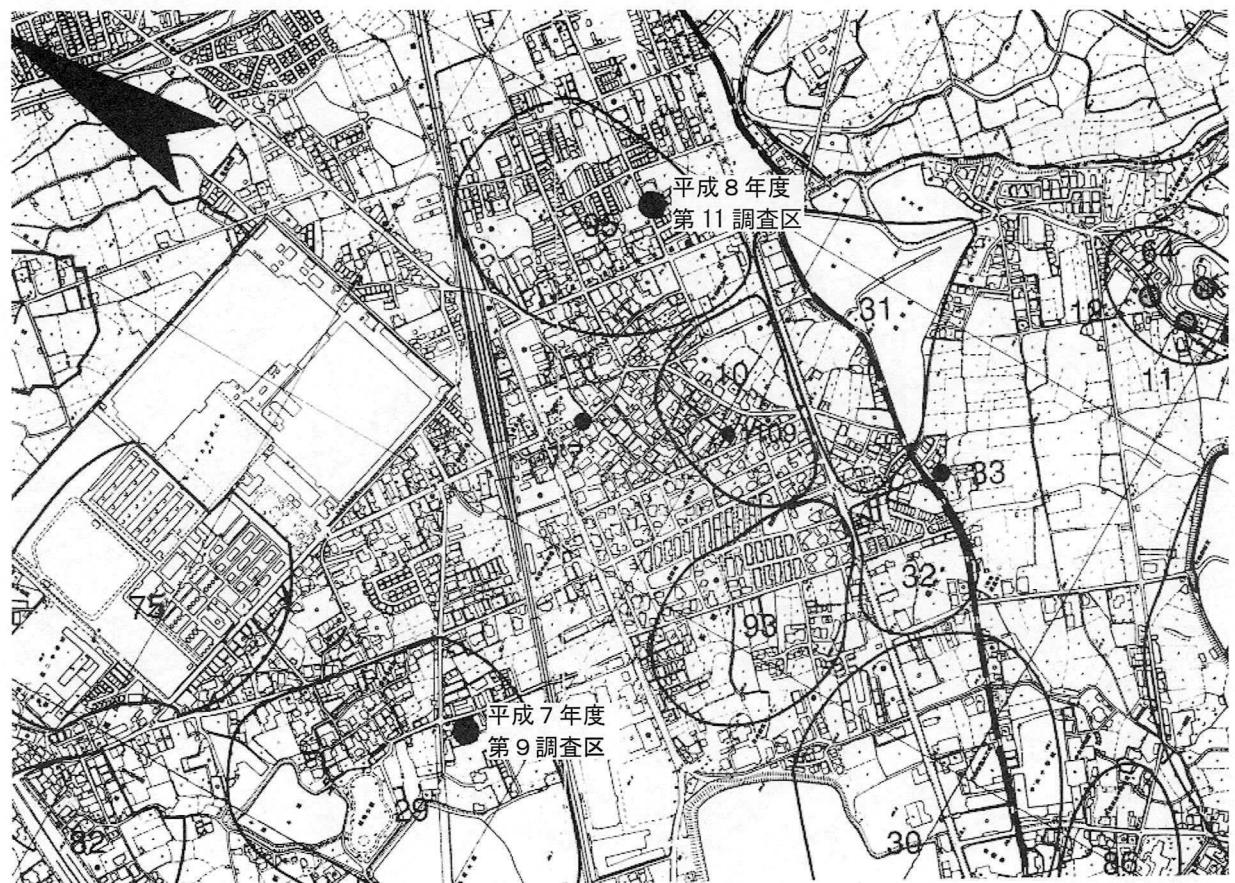


図23 調査地位置図(平成 7 年・平成 8 年)

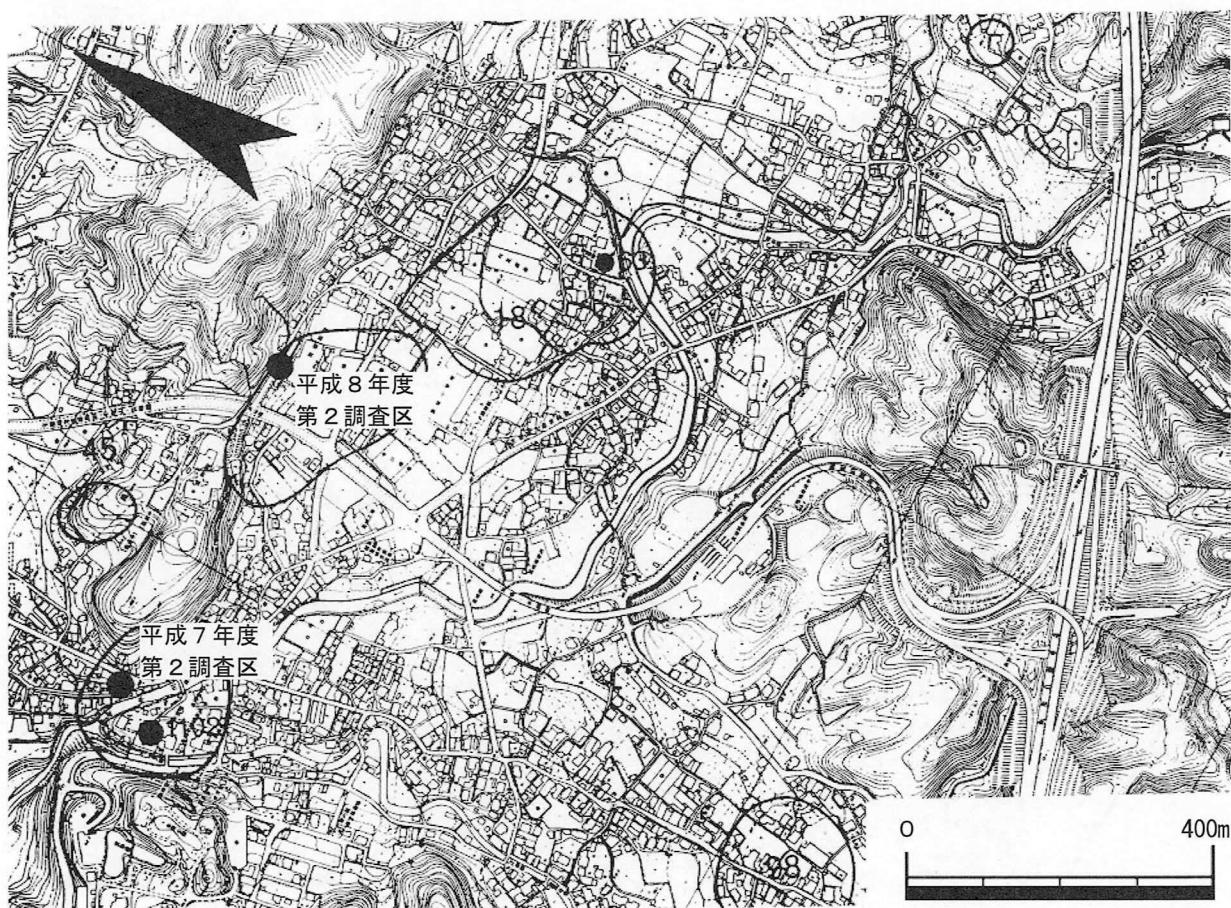


図24 調査地位置図(平成 7 年・平成 8 年)

報告書抄録								
ふりがな	かいづかしいせきぐんはつくつちょうさがいよう							
書名	貝塚市遺跡群発掘調査概要							
副書名								
巻次	32							
シリーズ名	貝塚市埋蔵文化財調査報告							
シリーズ番号	第78集							
編著者名	三浦基 木嶋崇晴							
編集機関	貝塚市教育委員会							
所在地	〒597-8585 大阪府貝塚市畠中1-17-1 TEL072-423-2151							
発行年月日	西暦2010年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	調査期間	調査面積 m ²	調査原因	
新井・鳥羽遺跡	大阪府貝塚市 新井	27208	29	34度26分 21秒	135度21 分57秒	2009 0226	4.5	個人住宅
名越遺跡	大阪府貝塚市 清児	27208	71	34度25分 27秒	135度22 分26秒	2009 0206	6	個人住宅
堤三宅遺跡	大阪府貝塚市 蓬田	27208	88	34度25分 53秒	135度21 分17秒	2009 0218~0219	9	個人住宅
地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 王子	27208	72	34度25分 37秒	135度21 分8秒	2009 0302~0303	7.5	神社
清児遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	36	34度25分 54秒	135度22 分28秒	2009 0319	3.75	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 北町	27208	22	34度25分 38秒	135度21 分21秒	2009 0624	9	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 なか中	27208	22	34度26分 55秒	135度21 分27秒	2009 0707~0708	1	寺院
小瀬五所山遺跡	大阪府貝塚市 永吉	27208	58	34度27分 2秒	135度22 分24秒	2009 0716	6	個人住宅
清児遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	36	34分25分 43秒	135度22 分31秒	2009 0727	6	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34分26分 48秒	135度21 分17秒	2009 0813	6	個人住宅
地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	72	34分25分 40秒	135度21 分8秒	2009 0907	8.1	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 なか中	27208	22	34度26分 55秒	135度21 分27秒	2009 0909~0911	1.5	寺院
石才遺跡	大阪府貝塚市 鳥羽	27208	59	34度26分 7秒	135度21 分53秒	2009 0924	6	個人住宅
蓬田ハマテ遺跡	大阪府貝塚市 蓬田	27208	109	34度25分 49秒	135度21 分10秒	2009 1015	12.75	個人住宅
蓬田はまて遺跡・蓬田廃寺	大阪府貝塚市 王子	27208	51	34度25分 42秒	135度20 分54秒	2009 1027	6	個人住宅
新井ノ池遺跡	大阪府貝塚市 麻生中	27208	30	34度25分 57秒	135度22 分5秒	2009 1207	4.5	個人住宅
地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	72	34度25分 42秒	135度21 分18秒	2009 1222	9.7	個人住宅

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
新井・鳥羽遺跡	集落跡				
名越遺跡	散布地	近代		磁器、瓦	
堤三宅遺跡	集落跡	中世	鋤溝、落込み状遺構	土師器、瓦器	
地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	中世		瓦	
清児遺跡	散布地				
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	中世、近世		土師質土器、瓦、陶器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	側溝、礎石	瓦、磁器	
小瀬五所山遺跡	集落跡	中世			
清児遺跡	散布地				
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	中世			
地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡				
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	鐘楼基壇	瓦、陶磁器、錢貨、土師質土器	
石才遺跡	散布地	中世	土坑	土師器、瓦器	
蓬田ハマデ遺跡	集落跡	中世		土師器、瓦器	
蓬田遺跡・蓬田廃寺	散布地、寺院跡	中世		瓦器	
新井ノ池遺跡	集落跡				
地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	中世	溝	土師器、瓦器、瓦、陶磁器	

平成7年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
さわいせき 沢遺跡	大阪府貝塚市 沢	27208	3	34度26分 3秒	135度20 分32秒	1995 0615~0616	12	個人住宅
みずまでらいせき 水間寺遺跡	大阪府貝塚市 水間	27208	17	34度24分 0秒	135度23 分9秒	1995 0706~0707	9	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 55秒	135度21 分17秒	1995 0710~0711	21	個人住宅
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	大阪府貝塚市 みつまつ 三ツ松	27208	69	34度24分 25秒	135度22 分59秒	1995 0724	7.5	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 にまち 西町	27208	22	34度26分 58秒	135度21 分21秒	1995 0725~0726	15	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 57秒	135度21 分31秒	1995 0821~0822	12	個人住宅
さわじょうあと 沢城跡	大阪府貝塚市 さわ 沢	27208	28	34度26分 5秒	135度20 分36秒	1995 0913~0914	10.5	個人住宅
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 じぞうどう 地蔵堂	27208	72	34分25分 43秒	135度21 分 24秒	1995 0918~0919	12	個人住宅
にいとばいせき 新井・鳥羽遺跡	大阪府貝塚市 にい 新井	27208	29	34度26分 17秒	135度22 分9秒	1995 0920~0921	12.25	個人住宅
いしがいみみいせき 石才南遺跡	大阪府貝塚市 はなせ 橋本	27208	70	34度25分 43秒	135度21 分60秒	1995 1002~1003	20	個人住宅
もりしもだいいせき 森下代遺跡	大阪府貝塚市 もり 森	27208	83	34度24分 58秒	135度22 分59秒	1995 1011	12	個人住宅
とりのいけにしいせき 鳥の池西遺跡	大阪府貝塚市 なごせ 名越	27208	100	34度25分 7秒	135度22 分 42秒	1995 1107~1108	12	個人住宅
かじこうざき・はたけなかいせき 加治・神前・畠中遺跡	大阪府貝塚市 うみづか 海塚	27208	23	34度26分 34秒	135度21 分26秒	1995 1113~1114	12.6	個人住宅
いしがいせき 石才遺跡	大阪府貝塚市 いしがい 石才	27208	59	34度25分 59秒	135度21 分56秒	1995 1121~1122	10.5	個人住宅
もりしもだいいせき 森下代遺跡	大阪府貝塚市 もり 森	27208	83	34分25分 2秒	135度22 分59秒	1995 1211~1212	17	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度27分 4秒	135度21 分26秒	1995 1220~1221	14	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 みなみまち 南町	27208	22	34度26分 44秒	135度21 分15秒	1996 0214~0216	19.5	個人住宅
にいのいがいせき 新井ノ池遺跡	大阪府貝塚市 あそなか 麻生中	27208	30	34度25分 59秒	135度22 分14秒	1996 0307~0308	6.3	個人住宅
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 きたまち 北町	27208	22	34度26分 58秒	135度21 分25秒	1996 0311~0313	12.5	個人住宅

平成7年度

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
さわいせき 沢遺跡	集落跡		落ち込み1基	土師器、瓦器	
みずまでらいせき 水間寺遺跡	寺院跡	近世末	カマド遺構	陶磁器、瓦	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑4基	陶磁器、瓦	
みかやまにしいせき 三ヶ山西遺跡	散布地	中世			
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		陶磁器、瓦	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑3基	陶磁器、瓦	
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	中世	溝2条、土坑1基	陶磁器、瓦	

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	古墳～中世		白磁、瓦器	
新井・鳥羽遺跡	集落跡	弥生時代～中世	鋤溝	黒色土器、土師器、瓦器	
石才南遺跡	集落跡	弥生～古墳時代		土師器	
森下代遺跡	集落跡	中世			
鳥の池西遺跡	集落跡	中世		土師器	
加治・神前・畠中遺跡	集落跡	弥生時代～中世	土坑1基	陶磁器、瓦	
石才遺跡	散布地	縄文時代、平安時代～中世		磁器染付、瓦	
森下代遺跡	集落跡	中世	足跡	陶磁器、瓦器	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝2条、土坑1基	陶磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝1条、土坑1基	陶磁器、瓦	
新井ノ池遺跡	集落跡	弥生時代、古墳時代、中世	溝2条、土坑1基	陶磁器、瓦	
貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	溝2条、土坑1基	陶磁器、瓦	

平成8年の調査

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北 緯	東 經	調査期間	調査面積 m ²	調査原因
		市町村	遺跡番号					
福田遺跡	大阪府貝塚市 福田	27208	82	34度26分 30秒	135度21 分 53秒	1996 0508～0510	40.5	個人住宅
木横遺跡	大阪府貝塚市 木横	27208	74	34度23分 59秒	135度23 分29秒	1996 0520～0522	14.5	個人住宅
地蔵堂廃寺	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	8	34度25分 37秒	135度21 分17秒	1996 0529～0531	9	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 南町	27208	22	34度26分 48秒	135度21 分 14秒	1996 0604～0605	11	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 西町	27208	22	34度26分 57秒	135度21 分16秒	1996 0610～0611	7	個人住宅
地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 王子	27208	72	34度25分 38秒	135度21 分5秒	1996 0704～0705	6	個人住宅
沢西遺跡	大阪府貝塚市 沢西	27208	78	34度25分 50秒	135度20 分27秒	1996 0724～0725	9	個人住宅
王子遺跡	大阪府貝塚市 堤	27208	60	34度26分 36秒	135度21 分29秒	1996 0902	22	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 北町	27208	22	34度27分 2秒	135度21 分20秒	1996 0924～0925	7	個人住宅
沢城跡	大阪府貝塚市 沢	27208	28	34度26分 8秒	135度20 分33秒	1996 1112～1113	4.3	個人住宅
半田北遺跡	大阪府貝塚市 半田	27208	95	34度26分 24秒	135度22 分37秒	1996 1206	4	個人住宅
貝塚寺内町遺跡	大阪府貝塚市 北町	27208	22	34度27分 2秒	135度21 分21秒	1996 1209～1211	10.2	個人住宅
地蔵堂遺跡	大阪府貝塚市 地蔵堂	27208	72	34度25分 42秒	135度21 分22秒	1996 1216～1218	22.5	個人住宅
沢城跡	大阪府貝塚市 沢	27208	28	34度26分 13秒	135度20 分34秒	1994 0913～0914	11.6	個人住宅

平成8年度

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
ふくだいせき 福田遺跡	集落跡	中世	溝2条	土師器、瓦質羽釜、陶器、磁器	
こつみいせき 木積遺跡	散布地	中世	土坑4基、溝2条	陶器、磁器、瓦	
じぞうどういはいじ 地蔵堂廃寺	寺院跡	中世	足跡	土師器、瓦、瓦器、瓦質羽釜	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑2基	陶磁器、瓦	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	土坑1基	陶磁器、瓦	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	古墳～中世		磁器、瓦	
さわにしいせき 沢西遺跡	集落跡	弥生時代、中世			
おうじいせき 王子遺跡	集落跡	古墳～近世		土師器、瓦器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世	石組み遺構	陶磁器、瓦	
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	近世		須恵器、土師器、瓦器	
はんだきたいせき 半田北遺跡	集落跡	中世		土師器	
かいづかじないちょういせき 貝塚寺内町遺跡	城郭寺院跡	近世		陶磁器、瓦	
じぞうどういせき 地蔵堂遺跡	古墳、集落跡、社寺跡	中世	土坑1基	須恵器、瓦器、土師器	
さわじょうあと 沢城跡	城跡、集落跡	近世	土坑3基、溝2条	陶磁器、土師器、瓦	

図版

図版1 小瀬五所山遺跡（2009-10区）・石才遺跡（2009-19区）



1. 2009-10区 完掘状況

(西より)



2. 2009-19区 完掘状況

(北より)

図版2 新井・鳥羽遺跡（2008-39区）・新井ノ池遺跡（2009-25区）



1. 2008-39区 完掘状況

(東より)



2. 2009-25区 完掘状況

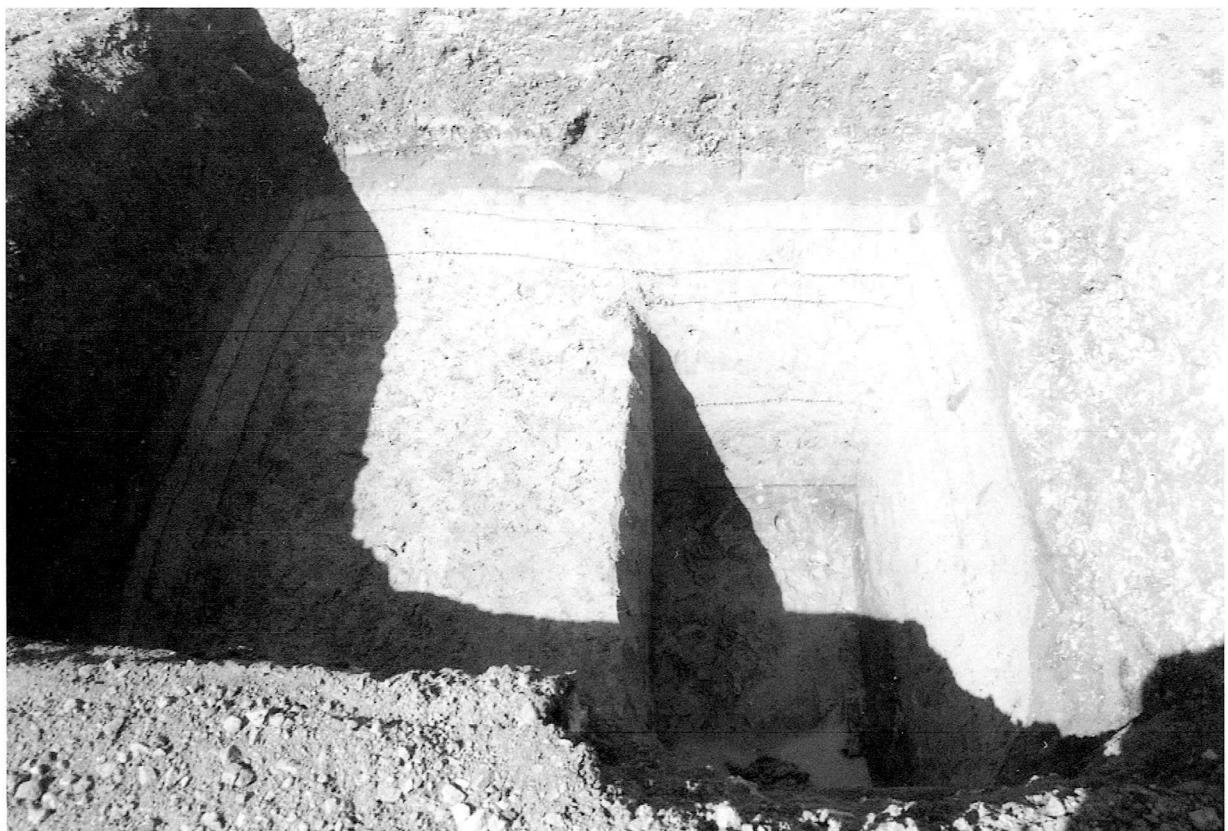
(南より)

図版3 淹田ハマデ遺跡(2009-22区)



1. 2009-22区 調査区1 完掘状況

(西より)



2. 2009-22区 調査区2 完掘状況

(東より)

図版4 堤三宅遺跡（2008-43区）・窪田遺跡・窪田廃寺（2009-23区）



1. 2008-43区 完掘状況

(東より)



2. 2009-23区 完掘状況

(南より)

図版5 清見遺跡（2008-49区・2009-11区）



1. 2008-49区 完掘状況

(西より)



2. 2009-11区 完掘状況

(北より)

図版6 名越遺跡（2008-42区）・地蔵堂遺跡（2008-45区）



1. 2008-42区 完掘状況

(西より)



2. 2008-45区 完掘状況

(西より)

図版 7 地蔵堂遺跡（2009-16区・2009-26区）



1. 2009-16区 完掘状況

(北より)



2. 2009-26区 調査区1 完掘状況

(北より)

図版8 貝塚寺内町遺跡（2009-7区・2009-14区）



1. 2009 - 7区 完掘状況

(東より)



2. 2009 - 14区 完掘状況

(北より)

図版9 貝塚寺内町遺跡（2009-9区）



1. 2009-9区 完掘状況

(西より)



2. 2009-9区 東壁検出状況

(西より)

図版10
貝塚寺内町遺跡（2009-17区）



1. 2009-17区 鐘樓南面調査区完掘状況

(南より)



2. 2009-17区 鐘樓南面断面状況

(南より)

図版11 貝塚寺内町遺跡（2009-17区）



1. 2009-17区 鐘楼北西隅礎石検出状況

(西より)



2. 2009-17区 鐘楼北東隅礎石下検出状況

(西より)

貝塚市埋蔵文化財発掘調査報告 第78集
貝塚市遺跡群発掘調査概要32

発行日 平成22年(2010)3月31日
編集・発行 貝塚市教育委員会
大阪府貝塚市畠中1丁目17番1号
印 刷 摂河泉文庫